

縣知事宛

何郡何村

某〇

五八八

請書

今般本郡(本島)馬格改良ノ爲種馬何何號御貸下相成候ニ就テハ確ク御規則ヲ遵守シ替テ改良ノ實効ヲ可委萬一御規則ニ違背シ不當ノ所爲アルトキハ何時御引揚相成候共聊カ苦情申出聞敷候依テ請書差出置候也

何郡何村何番地

族籍

何

何郡何村何番地

保証人 何

誰

明治 年 月 日

縣知事宛

●島根縣令第三號 明治二十八年一月八日、種牛補助費支給規則左之通相定ム

種牛補助費支給規則

第一條 本費ハ種牛改良獎勵ノ爲メ組合ヲ設ケ善良ナル種牛ヲ購求シ一ケ年三十頭以上ヲ交尾セシメ二ケ年間種畜ニ供スル者ニ對シ之ヲ下附ス
第二條 本費ヲ支給スル各郡別頭數ハ左ノ如シ

出雲國

石見國

隱岐國

島根郡	秋鹿郡	意宇郡	能義郡	仁多郡	大原郡	飯石郡	出雲郡	橋本郡	神門郡	安摩郡	安智郡	邑智郡	那賀郡	美濃郡	鹿足郡	周吉郡	穩地郡	海士郡	知夫郡
二	二	二	二	二	二	二	二	一	三	二	二	一	二	二	一	二	二	二	二
頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭

第三條 本費ハ種牛ノ品位ニ依リ五等ニ區別シ一頭拾圓以上貳拾圓以下ノ額ヲ支給ス

第八節 農工商 C種畜

五八九

第四條 本費ノ下附ヲ出願スル者第二條ノ定數ヲ超ユルトキハ組合ノ組織種牛ノ優劣及配置ノ狀況等ニ就キ許否ヲ定ム

第五條 本費ヲ受ヘキ種牛ハ本縣種牛馬取締規則ニ合格シ本検査ヲ受タルモノニ限ル
但本縣種牛馬取締規則第十四條ニ依リ検査証ヲ得タル者ハ本條ヲ適用セス

第六條 本費ノ下附ヲ請ハントスル者ハ其年二月十五日限リ甲號書式ニ依ヒ方法書ヲ添へ出願スヘシ

第七條 種牛組合ニ於テ世話條二名以上ヲ撰定シ種牛ヲ監督シ及組合ニ關スル諸般ノ事務ヲ整理セシムヘシ

第八條 本費ノ支給ヲ受タル種牛ハ交尾三十頭一回ニ付一頭ニ付一ヲ終ル迄ハ其郡内若クハ聯合郡内ノ者ニ限リ必ス其請求ニ應スヘシ

但其郡内若クハ聯合郡内ニ於テ本條定數ニ滿タスト認ムルトキ若クハ其定數ヲ終ヘタル後ハ其郡及聯合郡以外ノ者ノ請求ニ應スルコトヲ得

第九條 種牛其年ノ交尾ヲ終リタルトキハ乙號書式ニ依リ交尾頭數ヲ報告スヘシ

第十條 本費下附ノ指令ヲ與ヘタルモノハ交尾報告ヲ受理シタル後島廳郡役所ヲ經テ補助費ヲ下附スヘシ

第十一條 本費下附ノ許可ヲ與ヘタル後疾病ニ罹リ又ハ惡癖ヲ發シ種畜ニ供スヘカフサル狀又ハ斃死セルトキハ他ノ本検査証ヲ得タル種牛ヲ購入シ殘餘ノ年期ヲ繼續セシムヘシ

第十二條 種牛組合ヲ設置セス又ハ之ヲ設置スルモ第二條ノ定數ニ滿タサルトキハ殘餘ノ金額ヲ以テ他ノ必用アル場所ニ補助スルコトアルヘシ

第十三條 本費下附許可ノ後ト雖モ本則ニ違背シ或ハ方法書記載ノ通實行セサルニ於テハ許可ヲ取消シ又補助金ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條 本則ニ依リ差出願届ハ所轄島廳郡役所戶長役場町村役場ヲ經山スヘシ

種牛補助費下附願

甲號書式

今般種牛組合ノ組織シ良牛ヲ購入シ種畜ニ供シ度候間御検査ノ上補助費御下附被下度別紙方法書並ニ検査願相添へ此段相願候也

明治 年 月 日

何郡何村種牛組合世話係

何 某
何 某

縣知事宛

種牛組合組織方法書

一 組合ノ地區並ニ組合人員

一 種牛ノ代價及其他經費支出ノ方法

一 種牛飼養人

一 牝牛交尾料

一 一年間交尾ノ頭數ノ豫定

一 種牛供用年限

右之通無相違實施可致候也

何郡何村種牛組合世話係

何 某
何 某

乙號書式

種牛交尾報告

第八類 ○農工商 ○種畜

何郡 何村

種牛組合世話係

何 何

某 某
〇 〇

種牛検査証番號

第 號

種類	牝牛	年齡	毛	色	交尾	度數	住	所	姓	名

右之通相違無之候也

明治 年 月 日

縣知事宛

●島根縣農第二號

明治廿八年四月二十日

隠岐島廳

其部内ニ於テ本年一月本縣令第三號種牛補助費支給規則ニ依リ補助費ノ下附ヲ出願セシ種牛ヲ検査シ其成績詳細具申スヘシ

但本文種牛ニ關スル取締ハ總テ明治二十一年ニ本縣令第三十三號種牛馬取締規則ニ準據シ取扱フヘシ

右訓令ス

獸醫 蹄鐵工

廿五年縣令
第六十八號

●縣令第六十八號

明治廿三年十月一日

明治二十年ニ本縣令第十號獸醫假開業免狀出願規則左ノ通り改正ス

獸醫假免狀出願手續

第一條 獸醫ニ乏シキ地方(獸醫ノ居住地ヨリ一日中ニ往復シ能ハサル所ヲ云フ)ニ於テハ獸醫假免狀ノ下附ヲ出願スルヲ得

第二條 獸醫假免狀下付ヲ出願スル者ハ別紙書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ島廳郡役所又ハ市役所ヲ經テ差出スヘシ

第三條 獸醫假免狀ヲ得ヘキ者ハ一區域内一人ニ限ル

第四條 獸醫假免狀年限ハ滿ニケ年以内トス但免狀期限ヲ過クルモ仍ホ獸醫ニ乏シキ場合ニ於テハ此規則ニ據リ更ニ仮免狀ノ下付ヲ出願スルヲ得

第五條 獸醫假免狀區域内ニ於テ獸醫免許規則第二條ノ資格ヲ以テ免狀ヲ得タル獸醫ノ新ニ開業スル者アルトキハ免狀年限中ト雖モ仮免狀ヲ返納セシムルコトアルヘシ

(別紙)

願書式(用紙美談)
第一通
獸醫假免狀下附願

住所 (町村ナレハ五番ナリ)
並記スヘシ
族 籍

姓 名

生 年 月

私儀何郡(市)何町何番地ニ於テ獸醫假開業仕度候間獸醫假免狀御下附被下度別紙履歷書相添ヘ此段奉願候也

年 月 日

●農工商 ●獸醫 蹄鐵工

農商務大臣宛

市(町村)長 姓

名印

●島根縣令第六十八號 明治二十五年六月十四日

●訓令第二十四號 明治二十年二月四日

本年二月縣令第十號 獸醫假開業免狀出願規則ニ依リ假開業獸醫出願者アルトキハ該則第一條及第三條ニ基キ免

許區域ノ見込ヲ定メ其他別紙書式之通取調副申スヘシ

但十九年五月郡乙第四十四號達ハ廢止ス

(別紙書式)

獸醫假開業出願者取調書

住所	族籍	氏名	年月日生
營業區域何郡一圓又ハ何郡ノ内何町 區域内地勢			
同 廣狹 (東西何里南北何里)			
同 牛馬頭數 (牛何頭馬何頭)			
營業年限何箇年 (二年以内)			

一 開業獸醫居住地ヨリ假開業獸醫營業區域境界マテノ最近距離何里(開業醫ナキ地方ハ其山ヲ記スヘシ)
右之通候也

年 月 日

知事宛

郡長氏 名印

●縣令第七十二號 明治二十三年十月二十八日

左ノ願書ハ戶長役場町村役場市役所郡役所島廳ヲ經テ差出スヘシ

一 獸醫免狀下附願

一 獸醫免許試驗願

一 蹄鐵工免狀下付願

一 蹄鐵工免許試驗願

●島根縣告示第八十六號 明治二十五年六月十一日

開業獸醫(假開業獸醫ヲ除ク)ニシテ轉居ヲナシ明治二十二年十一月農商務省告示第十五號ニ依リ同省へ届出

ル時ハ同時ニ島國郡市役所ヲ經テ届出ツヘシ

●縣令第五十八號 明治二十三年七月二十日

蹄鐵工假免許出願規則左ノ通相定ム

蹄鐵工假免許出願規則

第一條 蹄鐵工ニシテ地方(蹄鐵工ノ居住地ヨリ一日中ニ往復シ能ハサル所ヲ云フ)ニ於テハ蹄鐵工假免狀
下附ヲ出願スルヲ得

第二條 蹄鐵工假免狀下附ヲ出願スル者ハ別紙書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ島國郡役所市役所ヲ經テ差出スヘシ

第三條 踏鐵工免狀ヲ得タル者ハ其免狀ニ指定シタル區域以外ニ於テ踏鐵工ノ業ヲ爲スヲ得ス
 第四條 踏鐵工仮免狀ヲ得ヘキ者ハ一區域内一人ニ限ル
 第五條 踏鐵工仮免許年限ハ滿ニケ年以内トス
 但免許期限ヲ過クルモ仍キ踏鐵工ニ乏シキ場合ニ於テハ此規則ニ依リ更ニ仮開業免狀ノ下附ヲ出願スルヲ得

第六條 踏鐵工仮免許期限内ト雖モ其區域内ニ於テ踏鐵工免狀ヲ得タル者アルトキハ仮免狀ヲ返納セシムルコトアルヘシ
 (別紙)

冊書式(用紙美濃)
 踏鐵工仮免狀下附願

住 所 (市町村ノ本籍ヲ示スヘシ)
 族 籍

生 年 月 名

私儀何郡(市)何町何番地ニ於テ踏鐵工仮開業仕度候間踏鐵工仮免狀御下附被下度別紙履歷書相添ヘ此段奉願候也
 年 月 日 右

氏 名 印
 氏 名 印

農 商 務 大 臣 宛
 訓令第六十八號 明治二十三年七月三十日
 島 田 郡 役 所 市 役 所

本年七月縣令第五十八號踏鐵工仮免許出願規則ニ依リ踏鐵工仮免狀ノ下附ヲ出願スルモノアルトキハ該規則第一條ニ基キ區域ヲ定メ左ノ書式ニ據リ取調願申スヘシ
 踏鐵工仮免狀下附出願書調書

住 所
 族 籍
 氏 名
 年 月 生 名

區域
 地勢
 廣袤
 馬匹頭數
 營業年限
 踏鐵工居住地ヨリ踏鐵工仮免許區域境界迄最近距離
 水 産 業

●第五百三十四號 明治六年十一月三十日

安道湖水内漁業制限別紙ノ通相定候條最前許可ヲ受候モノ並以來願出候モノ共右制限ニ照準シ犯戻無之様屹度可相心得事
 右之通管内無漏相違スルモノ也
 (別紙)

一安道湖水内ハ衆人糊口ノ寄ル所ニ付都テ從來許可ノ外大漁ノ獲ハ禁止候事

第八類 ○農工商 ○水産業 五九七

一都ノ漁事ニ付湖水内ハ町々村々ノ經界無之管許可ヲ得候モノハ適宜ノ所ニテ漁業可相營事
一前條ノ如ト雖モ人民餘業ノ爲ニ成丈其町村最寄ニテ浮網漁一ヶ所ハ可差許一村一町ノ内ニテ二ヶ所以上ハ
不相成事

但村町受ナレハ稼人ノ義ハ其村町内ニテ熟識ノ上取究可申出奉

一浮網相願候ハ其場所取極精細ナル繪圖面ヲ作り可願出奉

一一旦差許候場所上下左右ニ振替候儀不相成事

一何漁業ニテモ都テ水理ニ障リ通船ノ妨無之様厚注意可致事

但漁業ニ付自然水尾筋水代堤等破損ノモノハ夫々取糾ノ上償方可申付事

一大漁ノ義通例禁止候得共全漁業ヲ本業トシテ外ニ稼方無之分ハ詮議ノ上差許候義モ可有之事
右之通相定候事

●乙第五十二號 明治九年四月十五日

各區正副戸長

定場漁業拜借地之儀者其所用ニ就キ候儀ニテ其地ヲ獨リ專用致シ候筋ニ無之論ハ赤貝活場トシテ海面拜借願
濟ノモノニ候トモ右海面オキテ網ヲ張リ魚ヲ釣リ候モノ有之候トモ赤貝活人オキテ之ヲ防拒スルノ權ハ之無
筋ニ候條不心得之モノ無之様屹度可及説諭候事右之通相違候事

●坤第三十七號 明治九年十一月四日

石見國各區戸長

海面借用場區ノ義ハ其營業ノ種類ヲ限候儀ニテ諭ハ海面採取ノ爲メ海面拜借區域内ニ於テ網ヲ張リ魚ヲ釣
リ候トモ採草借區人ニ於テ是ヲ防拒スルノ權無之又魚漁區内ニ於テ海藻ヲ採取スルモ同様ノ義ニ有之且四ツ
手投網ノ如ク漁場不定ノ營業ハ他人ノ借區外障得不相成場所ニ於テ一時適宜ノ漁業致候義ハ不苦候條此旨可
相心得事

右之通相違候事

●甲第三百六十號 明治十一年十二月二十七日

出雲國宍道湖字ヨメガ島上手ヨリ下モ川筋川通リ深ニ幅七間通リ船路ト相定候條停泊船及ヒ魚漁ノ爲メ網具
ヲ張出シ又ハ竹木打杭等致シ船路ヲ妨候様之儀決テ不相成候條此旨布達候事
●甲第五十八號 明治十二年三月十五日

河海湖水等之内水代地開發之爲代打進テ若クハ箒柵取設有之水面内ニ於テ地主ノ承諾ヲ經テ漁業候義ハ一
切不相成候條自然違犯之者ハ其筋ニ於テ取糾ノ品モ可有之此旨布達候事

●乙第二十二號 明治十四年三月八日

郡町村

水産ノ盛殖ヲ謀ルハ國家經濟ノ要務ニ候處廢藩置縣以來往々舊慣ヲ變易シテ捕魚採貝方往々其宜ヲ失シ爲之
水族ノ蕃殖ヲ妨ケ障碍ヲ生シ候類無之モ難計若シ右等ノ類有之候ハ、篤ト實地取調ノ上其旨可申出且凡ソ
水産ノ盛衰利害ニ關シ意見アルモノハ其旨可申出様兼テ人民ニ相示シ置キ漸次漁業保護ノ道相立候様精々可
致注意此旨相違候事

●甲第百二十四號 明治十六年十二月八日

潜水器械漁業取締規則 明治十七年一月一日ヨリ施行ス
右布達候事

潜水器械漁業取締規則

第一條 潜水器械ヲ使用シテ魚介蟲藻ヲ採取セントスルモノハ此規則ニ從テ第一號願書式ニヨリ營業地ノ郡
役所以下郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

但營業鑑札ハ本條ノ許可ヲ得タル後更ニ郡役所ニ願出其下付ヲ請フヘシ

第二條 第一條ノ營業ヲナサントスルトキハ必營業場借區ノ許可ヲ受クヘシ

但借區願書ハ詳細ノ圖面ヲ添ヘ第一條ノ願書ト共ニ差出スヘシ

第三條 郡役所ニ於テ前兩條ノ願書ヲ受ケタルトキハ關係町村故障ノ有無ヲ取調ヘ其調書ニ意見書ヲ添ヘ併

●第八號 農工商 ○水産業

廿二年麻令
第七十二號
參照

セテ縣廳へ進達スヘシ

六〇〇

第四條 關係町村ニ於テ若故障アル場合ニ於テハ其事由ニヨリ本則ノ營業ヲ許リセサルコトアルヘシ

第五條 營業及借區ハ其許可ヲ得タルトキヨリ滿一ケ年以一期トシ滿期後引續キ營業セントスルトキハ更ニ第一條第二條ノ手續ヲナスヘシ

第六條 潜水器械ノ使用ハ出雲國石見國隱岐國各ニ器ヲ限リ許可スヘシ

第七條 一町村ノ地先ニ於テ一期間營業ノ日數ハ二十五日ヲ超コヘカラス

第八條 一町村ノ地先ニ於テ同時ニ二器ヲ使用スヘカラス

第九條 借區内ト雖深サ二十五尺以内ノ場所ニ於テ潜水器械ヲ使用スヘカラス

第十條 左ノ水族ハ潜水器械ヲ以採取スルコトヲ得ス

一 捕獲ノ許可ヲ得サルモノ

二 別段ノ達若クハ規則ヲ以捕獲ヲ禁シタルモノ

三 幅徑曲尺三寸五分以下ノ鮑

第十一條 毎年九月二十一日ヨリ十月二十日マテノ間ハ潜水器械ヲ使用スヘカラス

第十二條 借區内ト雖潜水器械ヲ用キサル漁業ハ一切之レヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 營業中ハ其船隻又ハ適宜ノ位置ニ第二號離形ニ示シタル旗章ヲ立ツヘシ

第十四條 營業場ノ廣狹及水族繁殖ノ景況ニヨリ第六條ノ制限ヨリ器械ノ數ヲ減少シテ許可セ又ハ現ニ使用スル數ヲ減セシメ又ハ一切器械ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

(第一號離形式)

(第一號離形式)

潜水器械漁業願

私儀何郡町村先ニ於テ(又ハ何郡町村地先ヨリ何郡)潜水器械何器ヲ使用何採取仕度御規則ノ義ハ遵守可仕候間御許可相成度此段戸長與印ヲ以奉願候也

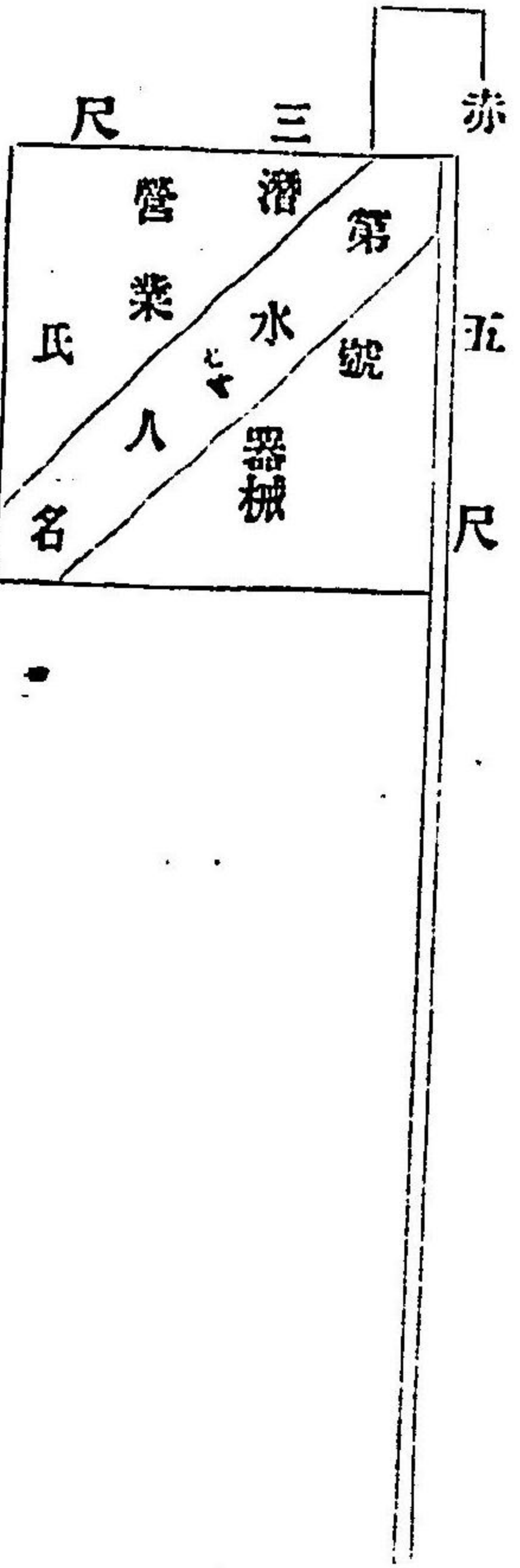
年 月 日

住所族籍

氏 名

縣 令 宛

戸長與書例之通り
(第二號旗章離形)



●縣令第七十二號 明治二十二年六月十日

明治十六年十一月甲第百二十四號布達潜水器械漁業取締規則第十五條左ノ通更正ス

第十五條 第一條第五條第七條第八條第九條第十條第十一條第十三條ヲ犯シタルモノハ五十錢以上壹圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

●甲第四十三號 明治十九年三月三十日

本年ニ本縣甲第二十三號漁業稅採滿稅徵收規則布達候ニ付テハ總テ漁業採滿ノ制限及ヒ取締方法ハ各地從來之實行ニ據ルヘシト雖別段之達若クハ指令ヲ以特ニ制限ヲ設クルコトアルヘシ

●第八類 ○農工商 ○水産業

第廿二年縣令
第七十六號
照四十七年全第
十一號

右布達候事

●縣令第五十六號 明治二十年五月十六日
水族蕃殖ノ爲メ松江諸郡別紙圖面並線内ニ於テ自今漁業(採介採藻共)ヲ禁ス
前項ニ違背スルモノハ違背罪ノ刑ニ處セラルヘシ
(別紙圖面寄ス)

●縣令第七十六號 明治廿二年六月十日

明治二十年五月縣令第五十六號第二項左ノ通更正ス
前項ヲ犯シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

●島根縣令第四十一號 明治二十七年六月十二日

明治二十年五月縣令第五十六號第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
公立學校等ニ於テ學術用ノ爲第一項禁漁場内ノ水産動植物ヲ採捕セントスルモノハ其種類及採捕ノ方法期
節等ヲ詳記シ許可ヲ受クヘシ

●告示第九十號 明治二十年十二月廿三日

縣下漁業組合ニ於テ實施セル漁業上制限禁止ノ事項左ノ如シ

○漁場區域 島根縣津浦字大橋浦ヨリ
秋鹿郡湯瀨組合 出雲國島根秋鹿郡

○漁業上制限禁止ノ事項
一 組合地區内ニ於テ左記ノ漁具漁法採藻具ヲ使用スルヲ禁ス
手繰網 タシメ網 浮網

石花菜採カキ 但十五歳未満ノ者及ヒ
婦女子ハ此限ニアラス
二 採藻ノ期節ヲ定ムル左ノ如シ

第廿一年告示
第四十六號
照四十七年全第
十二號

石花菜 四月ヨリ
アサヒ 八月マテ

肥料藻 九月ヨリ
年三月マテ

四 鮑ハ三寸以上ニ成長セシモノニアラサレハ捕獲セサルモノトス

五 カサメハ一切刈採スルヲ禁ス

六 海鼠捕獲ノ季節ハ十一月ヨリ翌年三月マテトス

中海漁業組合 出雲國島根意宇能義三

○漁場區域 中海一圓 島根縣三郡沿海町村浦

○漁業上制限禁止ノ事項

一 章魚ハ八九兩月間釣業ヲ禁ス

二 綆網ハ三月十五日ヨリ十二月三十一日マテ使用ヲ禁ス
但綆網附糠蝦桁ハ長八尺幅三尺以内ノモノニ限リ七月ヨリ十一月マテ五ヶ月間使用ヲ許ス

三 前項綆網ノ外總テ網目餘尺三分以内ノモノハ使用ヲ禁ス
但胎殘魚ヲ捕獲スル張網ニ限リ二月ヨリ五月マテノ間使用スルヲ得

四 一月ヨリ九月マテ打網ト唱ヘ船線等ヲ連打シテ網スル漁業ハ之ヲ禁ス

五 掛網及釣漁ニ油餅ヲ用フルヲ禁ス

六 三月ヨリ六月マテ左ノ區畫内ヲ限リ海藻採及捕漁ヲ禁ス

島根縣上宇野村字黒山ヨリ 間目標區畫内
全郡新庄村字城山マテ
意宇郡八幡村地先「マナイタクリ」ヨリ
全郡意宇郡川尻ヲ見通シ海岸マテ ノ間全上
能義郡飯梨川尻ヨリ 間全上
全郡下坂田村マテ

全郡黒井田村字浦ケ部ヨリ「マナイタクリ」マテノ間全上

七 島根縣森山村字日向浦ヨリ全村野島マテノ間二月ヨリ四月マテ網漁ヲ除キ一切ヲ禁ス

●第八類 ○農工商 ○水産業

宍道湖漁業組合

宍道湖島根縣宇奈月郡

○漁場區域

宍道湖及支川

島根縣宇奈月郡 宍道湖島根縣宇奈月郡 宍道湖島根縣宇奈月郡

北八木郡 宍道湖島根縣宇奈月郡

○漁業上制限禁止ノ事項

一 捕魚採藻ヲ禁スル季節左ノ如シ

小引網ハ毎年十一月ヨリ翌年六月マテ使用スルヲ許サス

胎殘魚漁ハ毎年八月ヨリ十二月十五日マテ之ヲ禁ス

採藻ハ毎年二月ヨリ五月マテ四ヶ月間之ヲ禁ス

但松江分字三番川ハ此限ニアラス

二 左ニ掲クル漁法漁具ハ一切使用スルヲ禁ス

丈高網 六艘網 手繰網 張切網 罾 魚籠 網 罾 罾 罾

三 浮網ハ濱佐陀川ヨリ布志名村ト湯町村トノ境界ヲ見通シ區分シ該以四ニ於テハ洲水沿岸ヨリ四百五十間

以外該以東大橋マテニ於テハ深ミ二十間ノ所ニ於テ使用スルヲ禁ス

但使用季節ハ九月ヨリ翌年一月マテヲ限リトス

四 多葉付(並付共)ハ十月ヨリ翌年三月マテ之ヲ禁ス

五 漁場ノ制限左ノ如シ

柄持網漁者甲乙前面ノ距離ハ秋冬二季ハ凡五十間以上春夏二季ハ凡五十間以上トシ激流ノ節ハ季節ヲ問ハス凡百間以上ヲ隔ツルモノトス

但甲乙漁者ノ示談ニ依リ距離ヲ減縮スルハ此限ニアラス

四ツ手網漁者甲乙ノ距離ハ凡七間以上ヲ隔ツルモノトス

但全上

柄持網四ツ手網共豫テ竹木等ヲ植テ漁場ヲ専有スルヲ許サス

六下庄原村舟川橋下川下五十間區及黒川村十四間川錦織及三郎下落台ヨリ川下四十間區

養魚場トシ漁業採藻ヲ禁ス

○漁場區域

神門郡漁業組合

出雲國橋本神門兩郡

○漁業上制限禁止ノ事項

一 鮑ハ縦三寸ニ成長セシモノニアラサレハ捕獲セサルモノトス

二 和布及羊毛菜黒菜ヲ除クノ外藻ノ種類如何ヲ論セス四五六ノ三ヶ月間刈採セサルモノトス

但橋本郡河下村ニ限リ海岸ヨリ一丁以内ハ季節ヲ問ハス刈採スルヲ得

三 手繰網ハ明治廿一年二月末日以降使用セサルモノトス

四 張待網ハ四五六ノ三ヶ月間使用セサルモノトス

但舟及ヒ器械ヲ用ヒス徒手攫取スルモノハ本項ノ限ニアラス

三 肥料ニ供スル海藻ハ五月ヨリ翌年二月マテ十ヶ月間ハ一切刈採セサルモノトス

四 罾網浮標ノ近傍ニ於テ罾ヲ釣獲スルヲ得ス

五 手繰網ハ組合地區内ニ於テ使用ヲ禁スルモノトス

六 油餅(餌油)ヲ使用スルヲ禁スルモノトス

七 石花菜ハ器械ヲ以テ採捕スルヲ禁ス

八 海苔ハ灰又ハ器械(鋸製ノ)ヲ以テ採捕スルヲ得ス

第八類 ○農工商 ○水産業

九海鼠ハ一個ノ量四十匁以下ノモノハ捕獲スルコトヲ禁ス
十貽介ハ二寸以下ノモノヲ捕獲スルヲ禁ス

那賀郡漁業組合 石見國那賀郡

○漁場區域

通摩郡界ヨリ
美濃郡界マテ

○漁業上制限禁止ノ事項

- 一 手繰網一モ子網ハ明治廿年十二月限り其使用ヲ禁ス
- 二 竹挾ヲ以テ海藻ヲ採取スル法抄取ト稱スルヲ禁ス
- 三 八手網ハ海岸ヲ距ル廿五丁里以外又大敷網裝置ノ場所ヲ距ル廿五丁里以外ノ場所ニ於テ使用スルモノトス

周吉郡漁業組合 隱岐國周吉郡地阿郡

○漁場區域

周吉郡周海

○漁業上制限禁止ノ事項

- 一 當分潜水器械ヲ使用スヘカラス
- 二 油餌ヲ使用スヘカラス
- 三 海鼠ハ曲尺四寸以下ノモノヲ捕獲スヘカラス
- 四 長ク曲尺三寸以下ノ鮑ヲ捕獲スヘカラス
- 五 毎年七月ヨリ十二月マテ刈藻スヘカラス
- 六 海苔ヲ摘取スルハ灰ヲ撒布シ或ハ刀物其他ノ器械ヲ用ヒ岩石ヲ磨極スヘカラス
- 七 水中集魚燈ヲ用フヘカラス

●告示第四十四號

明治廿一年四月三十日

島根秋鹿兩郡外海漁業組合規約漁業制限禁止事項中左ノ通更正増補セヨリ

一 禁止漁具中浮網ヲ鮫網ト改ム

一 肥料藻刈採期三月マテヲ四月マテト改ム

一 島根郡三保關字地蔵ヶ鼻ヨリ沖ノ御前ヲ經テ因幡國青谷鼻見通々全所ヨリ以南福浦マテノ海灣ニ限リ
來ル明治廿三年十二月三十日マテ手繰網ヲ使用スルヲ得ルノ項ヲ加フ

一 海苔ハ灰又ハ器械(鐵製ノモノ)ヲ以テ採捕スルヲ得スルノ項ヲ加フ

●告示第六十號

明治廿一年六月八日

石見國那賀郡漁業組合規約漁業制限左ノ通増補セリ

一 食料糊料トナルヘキ苔藻及食料糊料トナラサル禁採場外ニアルノ海藻ハ其種類ニヨリ採獲期節ヲ定メ期節初日七日以内ニ世話係ヨリ組合員一同へ通達スルモノトス

一 淡菜獲期節ハ毎年八月ヨリ翌年四月迄トス而シテ三年生以内ノモノハ採獲スルヲ禁ス

一 鮑ハ毎年九月ヨリ翌年五月マテノ間ニ於テ採獲スルモノトシ其放卵季節ハ之ヲ保護スヘシ而シテ其徑三寸以内ノモノハ捕獲スルヲ禁ス

一 海鼠ハ毎年十一月ヨリ翌年四月ノ間ニ於テ捕獲スヘシ而シテ其徑四寸以上ニシテ可成前年生ノモノトス

●島根縣告示第二十二號 明治廿七年二月十三日

縣下漁業組合ニ於テ實施セル漁業上制限禁止ノ事項中規約更正セルモノ左ノ如シ

○六道湖漁業上制限禁止ノ事項

- 二項サガリ待ノ次ニ左ノ漁具ヲ加フ
- 改良繩網

- 四項(三月ヨリ五月マテ多業附禁止ノ項)ヲ削除ス
- 五項ノ末ニ左ノ項目ヲ加フ
- 一 鯨掛網同業距離ハ五十間以上トス

期節ハ毎年四月ヨリ六月マテ三ヶ月間トス

餘掛網區域ハ松江大橋ヨリ東馬場川口點之間トス網目數ハ十五尋以上内網目ハ鯨尺一寸二分ノ外使用ヲ禁ス

但使用法網ノ高サ二尋半長サ拾五尋上方ニ浮子ヲ付ケ下方ニ球鏈ヲ付ケ兩端上方ニ浮子ヲ付ケ時々場所ヲ轉ス

島根秋鹿郡外海漁業組合

○漁業上制限禁止ノ事項

- 二項 東島根郡御津村宇男島ヨリ亥ノ正中ニ向ヒ字カンナカ瀬迄西秋鹿郡伊野村大字地台ト全郡大野村大字魚瀬トノ海面境界ヨリカンナカ瀬迄ノ區域内ハ手繰網ノ使用ヲ禁ス
- 三項 前項區域以外ニ於ケル手繰網使用ノ季節ハ島根郡多古島以東ハ毎年一月ヨリ三月マテ以西ハ毎年十一月ヨリ翌年一月マテトス

美濃郡漁業組合

○漁業上制限禁止ノ事項

一項 手繰網

但本項ノ漁具ハ六海里以外ニ於テ一月一日ヨリ三月末日マテハ使用スルヲ得尤モ期限外ニ至リテハ區域内ハ無論六十海里以外ト雖モ本組合區域ノ沖合ニ於テハ仍ホ使用ヲ許サ、ルモノトス

○縣令第五十六號 明治廿一年五月十八日

捕魚探貝採藻場區ノ借用ヲ乞フモノ漁業組合規約アル場所ニ於テハ其組合取締ノ連印ヲ以テ顯出ツヘシ

○縣令第一百八號

明治廿二年十月十九日

漁業取締規則左之通相定メ明治二十年十二月縣令第九號ヲ廢ス

漁業取締規則

第一條 漁業組合設置ノ漁場ニ於テ縣内外人ヲ問ハス組合外ノモノ從來ノ慣行特約ニヨリ漁業採介係スルトキハ其地組合同規約ニ遵フヘシ

第二條 漁業組合設置ノ漁場ニ於テ遊樂若クハ自用ノ爲メ魚介藻ヲ採取スルモノハ其地組合同規約ニ定メタル制限禁止ノ事項ヲ遵守スヘシ

第三條 第一條第二條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

●島根縣令第七十五號 明治二十六年八月二十九日

石見國諸川漁業取締規則左ノ通更定ス

但明治二十一年五月縣令第五十二號ヲ廢ス

石見國諸川漁業取締規則

第一條 石見國諸川ニ於テ二月一日ヨリ五月三十一日マテ鮎漁ヲ禁ス

第二條 吉賀川福川津和野川四見川紙祖川高津川ニ於テ落シ雜魚漁ヲ禁ス

全上六川ニ於テ火振漁鮎漁空漁鵜使漁ハ左ノ季節節中之ヲ禁ス

一 火振漁 自十月十一日 至翌年七月三十一日

二 鮎漁空漁 自一月一日 至六月三十日

三 鵜使漁 自二月一日 至十一月三十日

第三條 本則ヲ犯シタルモノハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

●島根縣令第四號 明治廿八年一月八日

水産業補助費支給規則左ノ通相定ム

水産業補助費支給規則

第一條 木費ハ大黒網及巾着網漁業補助費トシテ縣下外海各漁業組合ニ於テ本漁業ヲ施行スルモノニ對シ之

●第八號 水産業

六〇九

ヲ下附スヘシ

第二條 本費ノ補助ヲ受ヘキ漁業組合ハ左ノ如シ

- 一 島根秋鹿郡外海漁業組合
- 一 船越神門郡漁業組合
- 一 瀨摩安藝郡漁業組合
- 一 那賀郡漁業組合
- 一 美濃郡漁業組合
- 一 周吉郡地郡漁業組合
- 一 海士知夫郡漁業組合

但鳥取縣會見郡島根縣島根郡聯合外海漁業組合ハ本縣下漁業組合員ニ限リ島根秋鹿郡漁業組合ト協同スルコトヲ得

第三條 本費ハ一組合ニ對シ金壹百圓ヲ下附ス

第四條 本費ノ補助ヲ受ヘキハ雲石兩國各漁業組合ニ於テハ大黒網一側ツ、ニ限リ隠岐國各漁業組合ニ於テハ大黒網又ハ巾着網一側ツ、ニ限ル

第五條 本費ノ補助ヲ請フハントスル組合ハ其年四月三十日限リ左ノ各項ヲ具シ願出ヘシ

- 一 事業上ノ組織及施行上ノ規定
- 一 元資支出ノ方法
- 一 收穫處分ノ方法
- 一 漁網ノ構造(圖面添付ヲ要ス)
- 一 漁場區域(圖面添付ヲ要ス)

漁業季節

一 漁業教授者ノ姓名

第六條 第五條ノ各項中實施上不完全ト認ムル時ハ其更正ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 第五條ノ許可ヲ得タル上已ヲ得サル事故ニ依リ具申ノ條項ヲ變更セントスルトキハ其事由ヲ具シ更ニ認可ヲ受ヘシ

第八條 本漁業ヲ實施スルトキハ直ニ届出爾後ハ毎月一回其成績ヲ届出ヘシ

第九條 本費ハ補助請願許可ノ際二分ノ一ヲ下附シ漁業實施届出ノ際二分ノ一ヲ下附スヘシ

第十條 本費補助ノ許可ヲ與ヘタル後ト雖其施行方法不完全ト認ムル時ハ之ヲ取消スコトアルヘシ

第十一條 本規則ニ依リ進達スヘキ書面ハ組合取締ノ名義ヲ以テ所轄島廳及郡役所ヲ經由スヘシ

●島根縣令第七十一號 明治二十八年十二月二十七日

水産業組合規則左ノ通り相定ム

水産業組合規則

第一條 本則ニ於テ水産業ト稱スルハ水産動物ヲ捕採、製造若シハ製品賣買(附屬及仲買ヲ爲スモノヲ謂フ)

第二條 水産業組合ハ營業ノ弊害ヲ矯正シ利益ヲ増進スルヲ以テ目的トスヘシ

第三條 水産業組合ハ左ノ區域ニヨリ之ヲ設置スヘシ
但他縣ト聯合設置スルモノハ此限リコトアルス

一 外海ニ在テハ島廳又ハ每郡役所々轄内ノ沿海町村
一 中海及安道湖(湖水下流諸川ヲ包含ス)ニ在テハ各其湖海ニ沿フタル市町村

第四條 事業ノ種別ニヨリ特ニ組合設置ノ必要アル時ハ適宜區域ヲ定メ知事ノ認可ヲ受ケルヘシ

第五條 湖川(安道湖及下流諸川ヲ包含ス)ニ於テ組合設置ノ必要アル時ハ其區域内同業者四分ノ三以上ノ合意ヲ以テ本則ニ

第八類 ◎農工商 ○水産業

準據之ヲ設置スルコトヲ得

第六條 組合ノ設アル地區内ニ居住シテ組合員ト同業ヲ營ムモノハ其組合ニ加入スヘシ但他ヨリ入籍スルモノハ其地組合ノ規約ニ遵フヘシ

第七條 外海各組合ハ聯合會議所ヲ縣廳所在地ニ設クヘシ

第八條 組合ハ左ノ各項ニ據リ組合會議ノ決議ヲ以テ規約ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ更訂セザルトキ亦同シ

一 組合ノ名稱及事務所ノ位置

二 役員選舉法及職務權限

三 議員選舉法及會議ニ關スル規程

四 加入者及退去者ニ關スル規程

五 役員及議員給料旅費ニ關スル規程

六 違約者處分ニ關スル規程

七 組合費賦課徴收ニ關スル規程

八 漁村維持及漁民貯蓄ニ關スル規程

九 捕魚探獲ノ制限ニ關スル規程

十 漁場區域ニ關スル事項

十一 魚招林保護ニ關スル事項

十二 前各項ノ外組合ニ於テ必要ト認ムル事項

第九條 聯合會議所ハ左ノ各項ニ據リ聯合會議ノ決議ヲ以テ規約ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ更訂セザルトキ亦同シ

一 役員選舉法及職務權限

二 會議ニ關スル規程

三 役員及議員給料旅費ニ關スル規程

四 各組合ヲ統轄シ氣脈聯通ニ關スル規程

五 漁法製造法ノ改良及販路擴張ニ關スル事項

六 組合内水産上ノ利害取調及紛議仲裁ニ關スル事項

七 他府縣漁業組合ト交渉ニ關スル事項

八 經費賦課及徴收ニ關スル規程

九 前各項ノ外聯合會議ニ於テ必要ト認ル事項

第十條 組合ニハ組合長一名其他必要ノ役員ヲ置クヘシ

第十一條 聯合會議所ニハ所長一名其他必要ノ役員ヲ置クヘシ

第十二條 所長ハ聯合會議ニ於テ三名ノ候補者ヲ推薦シ知事ノ選定ヲ請フヘシ

第十三條 組合及聯合會議所ノ役員就職シタル時ハ知事ニ届出ツヘシ

第十四條 知事ニ於テ聯合會議所及組合役員中不適任ト認ムル者アル時ハ改選ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條 聯合會議ハ聯合會議所長外海各組合長及其組合會議ニ於テ互選シタル議員ヲ以テ組織スヘシ

第十六條 聯合會議ニ於テ選出スル議員ノ數ハ各一人トス

第十七條 聯合會議所ノ經費ハ外海各組合ノ經費ハ其組合員之ヲ負擔スヘシ

第十八條 聯合會議所及組合經費ノ豫算ハ聯合會議若シハ組合會議ノ決議ヲ經テ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 聯合會議及組合會議ニ於テ決議シタル事項認可ヲ受クヘシ

第二十條 經費ノ決算ハ毎年一月十日限リ報告スヘシ

第二十一條 聯合會議及組合會議ニ於テ決議シタル事項認可ヲ受クヘシ

第十八條 知事ハ所屬官吏ヲシテ組合會議所各組合ノ會計事務ヲ監査セシムルコトアルヘシ
 第十九條 隣縣ニ渉ル組合及聯合會ハ便宜規約ヲ設ケ交渉管理ヲ經テ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但規約ヲ
 更正シ若シハ其組合ヲ分立合併セシトスル時亦同シ
 第二十條 本則第六條第一項ニ違背シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料若シハ三日以上十日以下ノ
 拘留ニ處ス

第二十一條 各組合ヨリ差出書面ハ事務所所在地ノ島廳郡市役所ヲ經由スヘシ
 附則

第二十二條 本則ハ明治二十九年一月一日ヨリ施行ス明治十九年本縣令第四號漁業組合規則ハ同日限リ之ヲ
 廢止ス

第二十三條 現在ノ漁業組合及水產物製造同業組合ハ本則ニ依リ其組織ヲ改メ明治二十九年三月三十一日迄
 ニ知事ノ認可ヲ請フヘシ

第二十四條 外海各組合ニ於テハ明治二十九年四月三十日迄ニ聯合會議員ヲ選舉シ全年五月十日ヨリ縣廳所
 在地ニ於テ組合會議ヲ開キ規約ヲ定メ組合會議所設立ニ關スル順序ヲ議定スヘシ

山林

●甲第十五號 明治十六年二月七日

民有森林中水源涵養其他國土保安ニ關係アル箇所ニ於テ伐木ヲ要スル節ハ其事由ヲ具シ可同出旨客年三月本縣
 甲第五十五號ヲ以テ及布達置候付テハ調査ノ次第有之候條右ニ關スル森林悉皆別紙第一號雜形ニ照準關係町
 村協議ノ上一村限無遺漏取調實地明瞭繪圖相添來ル四月三十日限所轄郡役所へ可差出而シテ後來該林手入伐
 木等ヲ要スル節ハ別紙第二號書式ニ照準着手季節三月以前同出指揮ヲ乞フヘシ此旨布達候事
 但右ニ關スル森林無之町村ハ其旨ヲ届出可シ

△印ハ朱書

十七年甲第
二十九號參

第一號

國土保安ニ係ル民林取調帳

何國何郡何村

何番字何

△他村ニ係ル所有者ハ其村名肩書スヘシ

一森林反別何程

所有主何ノ誰印

此立木凡若干

何木若干 但目通回何尺ヨリ何尺マテ

內 雜木若干

但、、、、、

是ハ何村字何川又ハ何溜池水源涵養林ニシテ何村々々合何ヶ町村或ハ何村ノ内字何々耕地反別凡若干其他
 何々ノ利害ニ關ス

何番字何

一森林反別何程

所有主何ノ誰印

此立木凡若干

內譯前ニ全シ

是ハ土砂打止林ニシテ何町村字何々耕地反別凡若干又ハ家屋若干其他何々ノ利害ニ關ス
 △風潮除、類雪止、堤防或ハ沼河ノ樹竹ニシテ水害ヲ防禦スルモノ、魚附場、航海船舶ノ目標トナルモノ、等夫
 々實地適當ノ種目ヲ以テ取調其利害ニ關スル實況ヲ詳ラカコシ尤堤沼河トモ其本地字ヲ明記ス可シ
 △立木員數未ク取調ノ經ケル箇所ハ先以テ員數未詳ト掲ケ後漸次取調ノ上届出ルモ妨ナシ
 右ハ本年本縣甲第十五號御布達ニ據リ取調候處本村内ニ於テ國土保安ニ關スル民林書面之通相違無之候依テ
 圖面相添(關係村戸長)連署ヲ以進達仕候也

何國何郡

●第八類 ○農工商 ○山林

年 號 月 日

地元何村

戶長何

誰 印

被害關係何村

戶長何

誰 印

縣 令 宛

△第二號 國土保安ニ係ル森林伐木伺

何郡何町村

何番字何

何村番地族籍

所有主 何

誰

一森林反別何程

此立木若干

何木若干 但目通回何尺ヨリ何尺マテ

右ノ内 雜木若干

但、、、、、、、

反別何程 此度立木伐採伺場所

此立木若干

内譯前ニ全シ

△外(二回目ヨリ伐木伺出ノ例以後之ニ做テ)

△反別何程

△立木若干

△但明治何年何月何日伺出何年何月何日許可ニ付伐木何年何月何日伐採済

右ハ私所有(水源涵養又ハ何々)森林ニ候得共今般繁茂密ニ過キ(或ハ何々ノ事故ヨリ)伐採シ(或ハ何々)來ル何月^{初旬又ハ}着手致シ度尤(水源涵養又ハ何々)ニ障害等決テ無之伐木跡地ハ苗木仕付方可致候間實地御檢査ノ上伐採被差許度圖面相添戸長眞印ヲ以此段奉伺候也

右所有主

何ノ誰 印

戸長眞書式ノ如シ

(被害ニ關スル最寄戸長連署ス可シ)

●甲第二十九號 明治十七年三月十七日

明治十五年三月本縣甲第五十五號布達左ノ通改正候條此旨布達候事

民有森林ノ中水源涵養土砂并止風潮除額雪止等ノ如キ國土保安ニ關係アル箇所ニ於テ樹木ヲ斫伐シ礦物土石ヲ掘採セント欲スルトキハ其事由ヲ具シ實地明瞭ノ繪圖面相副伺出可シ

●縣令第九十七號 明治廿二年六月廿九日

國土保安ニ關スル民有森林中枯損木ヲ伐採セントスルモノハ森林所在地ノ島郡役所へ出ツヘ

●訓令第三百二十三號 明治廿二年六月廿九日

國土保安ニ關スル民有森林中枯損木伐採方願出ツルトキハ處分後十五日以内別紙書式ニ據リ報告スヘ

(別紙)

國土保安ニ關スル民有森林枯損木處分表

種類	處分年	郡	村	大字	字	番地	事故	木種	本數	所在	姓名
	月 日										

●第八類 ○農工商 ○山林

右報告候也

明治 年 月 日

知事宛

島司郡長 密

凡例

一 種類ノ欄ハ水源涵養又ハ土砂打止風防等其關係ノ事由ヲ記スルモノトス
一 事故ノ欄ハ立枯又ハ倒木等其枯損ノ事由ヲ記スヘシ

● 甲第十一號 明治十八年一月十九日

町村共有林取締規則別紙之通相定候條自今取締規程ヲ設置セントスルトキハ本則ニ從フヘシ
右布達候事

町村共有林取締規則

第一條

一 町村又ハ數町村ニ於テ便宜共有林取締規程ヲ定メ共有林保護掛及看守人ヲ置ヘシ

第二條

共有林ニ於テハ濫ニ稚樹ヲ伐採スヘカラス又成長木伐採ノ節ハ二倍以上ノ樹苗ヲ植繼ヘシ
但樹品ニヨリ植繼ヲ要セサルモノハ此限コアラズ

第三條

植繼又ハ新植ノ樹品ハ其土地ノ適否ニ因ルヘシト雖成ルヘシ良材ヲ撰ヘシ

第四條

共有林ハ年期ヲ定メ輪伐スルヲ法トス下草刈採落棄擲取ノ加キモ適宜其期限ト區域トヲ定メ置ヘシ

第五條

水源涵養土砂打止風潮除魚付場ノ如キ國土保安ニ關スル共有林ハ特ニ樹木ヲ愛護スヘシ

第六條

共有ノ草刈場ハ關係町村ノ需用高ニ應ジテ其區域ヲ定メ置共有林ト混同スヘカラス

第七條

共有林ノ周圍ニハ成ルヘシ火防線ヲ設ケ且豫テ火災消防ノ方法ヲ設ケ置ヘシ

第八條

保護掛及看守人給料其他取締上ニ要スル費用ハ其關係町村費ヨリ支辨スヘシ

第九條

前條々ノ外規程違犯者處分方其他實地要用ト認ムル處ハ増補スルコトヲ得

第十條

取締規程保護掛撰擧方法及處務順序ハ其町村會若シハ聯合町村會ノ議定ヲ經縣令ノ認可ヲ受シヘシ

第十一條

一 町村内若シハ數町村内ノ一部落又ハ組合持ノ共有林ト維持主協議ノ上縣令ノ認可ヲ受ケ取締規程ヲ設置スルヲ得ヘシ

● 縣令第五十三號 明治廿一年五月十五日

山野火入取締規則左ノ通相定ム

但本則ニ牴觸スル從前ノ違ハ廢止ス

山野火入取締規則

第一條 山野ニ火入ヲサント欲スル者ハ左ノ各項ヲ具シ所轄郡役所ヘ願出認可ヲ受シヘシ

一 火入ノ目的

一 火入期日

第廿一年縣令
第百一號
明治廿一年五月十五日
第五十八號

第八類 ◎農工商 ○山林

一 簡所限地目反別及字番號
 一 四至境界ヲ見ルヘキ實地畧圖
 第二條 前條ノ認可ヲ受ケタル者ハ其火入ヲサント欲スル山野ノ森林原野ニ接シタル境界ニ防火線ヲ設ケ且其近接森林原野所有者官林ニシテ官林巡邏所轄警察署又ハ分署巡査駐在所ノ内及所在戸長役場へ少ナクモ火入期日五日以前ニ其旨報告スヘシ
 第三條 防火線ハ都テ幅二間以上トシ線内ノ柴草ヲ薙取リ落葉及塵芥ヲ除去リ或ハ土堤又ハ堀溝等ヲ設ケ
 但道路路谷等ニテ本條ノ防火線ヲ設ケサルモ延焼ノ虞ナキ地ハ此限ニアラス
 第四條 日出前日没後及風勢穏ナラサルトキハ火入ニ着手スヘカラス
 第五條 火入ノ期日間ハ番人ヲ出シ火氣全ク消滅スルニ至ルマテ其場ヲ退カシムヘカラス
 第六條 火入認可ヲ受ケタル者ト雖郡長警察官戸長又ハ官林巡邏ニ於テ防火ノ準備不充分ト認メタルトキ若クハ風勢ノ變動等ニヨリ他ニ延焼ノ虞アリト思量スルトキハ直チニ之ヲ中止セシムルコトアルヘシ
 第七條 第一條第二條第三條第四條第五條ニ違背シ及第六條ノ中止ヲ背セサルモノハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス
 ●縣令第百一號 明治二十一年十月二十六日
 本年五月縣令第五十三號山野火入取締規則中左ノ通更正追加ス
 第一條
 但切替畑ヲ開キ或ハ開墾若クハ樹苗植付等ノ爲メ火入ヲ爲サント欲スルモノハ本條ノ手續ヲ要セス
 第二條 山野ニ火入ヲサント欲スル者ハ其山野ニ接シタル境界ニ防火線ヲ設ケ且其近接山野所有者官林巡邏所轄警察署又ハ分署巡査駐在所ノ内及所在戸長役場へ少ナクモ火入期日五日以前ニ其旨報告スヘシ尤當日雨天若クハ風勢變動等ノ爲メ火入ヲ爲シ難キトキハ日送リヲ以テ行フヘシ此場合ニ於テ更ニ報告ヲ

要セス

但前條但書ノ場合ニ於テ火入ヲ爲スモノハ本條報告ノ手續ヲ要セス
 第四條 「日出前日没後及」ノ七字ヲ刪除ス
 第六條 「火入認可ヲ受ケタル者」トアル下ニ「及第一條但書ノ場合ニ於テ火入ヲ爲ス者」ノ十八字ヲ挿入ス
 ●島根縣令第五十八號 明治廿四年五月二日
 明治二十一年五月縣令第五十三號山野火入取締規則第二條中括弧(官林ニシテ官林巡邏)ヲ(官林ナル時ハ小林區署若クハトシ第六條中警察官吏ノ下(大小林區署員大林區署派出員又ハ官林巡邏若クハ)ノ二十三字ヲ挿入ス戸長ノ下(又ハ官林巡邏)ノ六字ヲ削除ス
 ●訓令第百九十七號 明治廿二年十月十九日
 島 郡役所 市役所
 戶所役場 町村役場
 今般開令第二十四號ヲ以本縣下官林並ニ右ニ屬スル事務廣島大林區署ノ管轄ニ屬セシメ候處官林内火災風損蟲害盜伐其他官林ノ利害ニ關シテハ平素注意スヘキハ勿論ノ義ニ付右等發見セントキハ速ニ大小林區署又ハ派出所ノ内へ便宜報知シ且難差置場台ニ於テハ直ニ防禦取締方ニ從事スヘシ
 ●告示第百四十三號 明治二十二年十月十九日
 本年九月開令第二十四號ヲ以テ本縣下官林廣島大林區署ニ屬セシメシメ該官林及ヒ右ニ屬スル事務共昨十八日引繼結了候條自今右官林ニ關スル願伺届等ハ總テ官林所在ノ戸長市町村長ノ與書ヲ以テ廣島大林區署へ差出スヘシ
 ●告示第百五十七號 明治廿二年十一月十九日
 今般出雲國松江府母衣百七十三番邸及石見國濱田町大字片庭六十九番邸ノ兩所へ廣島大林區署派出所ヲ設置シ明二十日開闢ニ付同日以後官林ニ係ル諸願届等ハ總テ右廣島大林區署長林務官南郡義壽宛ヲ以官林元市町村長ノ與書ヲ經テ山雲隱岐兩國ニ係ル分ハ松江派出所へ石見國ニ係ル分ハ濱田派出所へ直チニ差出スヘシ

●告示第二百三號 明治二十三年十一月一日

官林内林産物賣渡並ニ持下ニ關シ廣島大林區署長ニ差出ス願書ハ二通ツ、差出スヘシ

●島根縣告示第八十五號 明治二十五年六月九日

廣島大林區内本縣下小林區々域及小林區署名稱左記ノ通變更シタル旨右大林區署長ヨリ通知アリ

小林區々域及小林區署位置

津和野小林區 小林區署位置 (石見國鹿足郡津和野町)

石見國鹿足郡一圓 全國美濃郡一圓

大森小林區 小林區署位置 (石見國遷摩郡大森村)

石見國遷摩郡一圓 全國那賀郡一圓 全國安濃郡一圓

川本小林區 小林區署位置 (石見國邑智郡川本村)

石見國邑智郡一圓

今市小林區 小林區署位置 (出雲國神門郡今市町)

出雲國神門郡一圓 全國橋樑郡一圓 全國出雲郡一圓

全國大原郡一圓 全國仁多郡一圓 全國飯石郡一圓

松江小林區 小林區署位置 (出雲國松江市)

出雲國意宇郡一圓 全國島根郡一圓 全國秋鹿郡一圓 全國能義郡一圓

隱岐國一圓

●島根縣告示第百十四號 明治二十六年五月二十七日

石見國遷摩郡大森村大森小林區署ヲ同國那賀郡濱田町ニ移シ濱田小林區署ト改稱シタル旨廣島大林區署ヨリ通知アリ

●告示第百四十四號

明治二十二年十月二十二日

縣下官林ハ本年九月間令第二十四號ヲ以テ廣島大林區署ニ屬セシメラル候得共左記ノ官林ニ限リ本縣ノ地方經濟ニ屬スルモノニ付キ右官林ニ係ル願何屆等ハ從來ノ手續ヲ以テ本縣ニ差出スヘシ

一 飯石郡來島村字土打

一 同郡同村字水地屋

一 同郡同村字三ツ又

一 同郡同村字明眼寺

一 同郡同村字大杓子

一 同郡同村字滑谷

一 同郡同村字才谷

一 同郡同村字與鑓與

一 同郡同村字琴引山

一 同郡同村字大谷上ノ平

一 同郡志々村字小立神與

一 同郡同村字梅木原

一 同郡同村字小谷與

一 同郡同村字梅木谷

●島根縣告示第百七十二號 明治廿六年九月廿一日

飯石郡來島村官林生産物公賣規程別紙ノ通相定ス

(別紙)

第一條 飯石郡來島村官林生産物公賣規程

生産物ノ公賣ハ入札方法ヲ用キテ施行スヘシ

●第八類 ○農工商 ○山林

第二條 生産物ヲ入札ニ付セントスルトキハ少クトモ入札期日十五日以前ニ揭示若クハ新聞紙等ニ依リ公告ス可シ

第三條 入札セント欲スル者ハ實物又ハ明細書及此規程其他該契約ニ必要ナル條件ヲ熟覽スヘシ

第四條 入札人ハ第一號書式ニ依リ入札書ヲ作り入札保証金ヲ要スルモノハ保証金ト共ニ豫定ノ日時ニ指定ノ場所ニ差出スヘシ

第五條 入札保証金ハ公告ニ掲グル金額ヲ爲換方預リ券トナシ納書ヲ付シ差出スヘシ

第六條 開札ノ時立會セントスルトキハ開札時限前ニ開札場所ニ届出ツヘシ
但本人事故アリ出席シ難キ者ハ相當代理人ヲ出スモ妨ケナシト雖トモ代理人ニハ必ス委任狀ヲ携帯センムヘシ

第七條 左ニ掲グル入札ハ無効トス
一 入札書ノ要領不明ナル者
一 脱印、違算、其他金員及氏名ノ認知シ難キ者

第八條 開札ノ上最高額入札ヲ落札人ト定ムト雖トモ其價額不相當ナルトキハ再入札ヲナサシム若クハ再入札ノ望人ナキトキハ其公賣ヲ取消スヘシ

第九條 落札人トナルヘキ者二名以上アルトキハ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ム

第十條 落札人入札ヲ取消シタルトキハ遞次繰下ケ落札人ヲ定ム
但繰下ケノ爲メ價格低下ニ失スルトキハ第八條ノ手續ニ依テ處分スヘシ

第十一條 落札人定リタルトキハ落札人ヲ除クノ外ハ直ニ入札保証金ヲ返付シ落札人ノ入札保証金ハ買受保証金ニ組替代金皆納マテ預リ置クモノトス

第十二條 落札人ハ第二號書式ニ依リ契約書ヲ作り差出スヘシ
但入札保証金ナキモノハ本條契約書ト共ニ買受保証金ヲ差出ス可シ

其手續ハ第五條ニ同シ

第十三條 落札人ハ落札ノ通知ヲ受ケタルトキ落札代價ノ全額ヲ即納スルコトヲ得

第十四條 落札人約定日限内ニ買受代金ノ拂込ヲ了リタルトキハ該官林看守ニ其拂込証ヲ示シ拂下物件ノ引渡ヲ受クヘシ
但落札物件ハ其代價ノ幾分ヲ拂込ムト雖トモ之ニ對シ内渡ヲナサハスヘシ

第十五條 買受人物件ノ引渡ヲ受ケタルトキハ第三號書式ニ依リ領收書ヲ作り看守ニ差出シ豫定ノ期限内ニ物件ノ搬出ヲ終ルヘシ

第十六條 左ノ場合ニ於テハ入札保証金ヲ返付セシ
一 落札ノ上買受契約ヲ落札人ニ於テ締結セサル時
一 開札後入札ノ取消ヲナシタル時

第十七條 左ノ場合ニ於テハ契約保証金ヲ還付セシ
一 落札人契約締結後代金ヲ日限内ニ拂込サル時
一 落札人契約締結後代金拂込以前ニ契約ヲ取消シタル時

第十八條 落札人物件ノ引渡ヲ受ケタル後豫期外ノ障礙ニ遇ヒ若クハ不得止事情ニ依リ之ヲ約定ノ日限内ニ搬出シ了ラサルトキハ其請求ニ依リ特ニ猶豫スルコトアルヘシ
但猶豫ヲ開屆ケサル場合ニ當リ落札人ニ於テ尙物件ノ搬出ヲ了サルトキハ搬出未済ノ物件ハ落札人ノ損失ニ屬ス

第十九條 前條ノ場合ニ於テ落札人搬出延期ノ請求ヲナサス恣ニ約定日限ヲ過ルトキハ搬出未済ノ物件ハ前條但書ニ依リ處分スルコトアルヘシ

第二十條 落札人若クハ雇人ニ於テ落札物件ノ採取又ハ搬出ノ爲メ他物ヲ損害スルトキハ之ニ對スル賠償引當トシテ搬出未済ノ物件ヲ差押若クハ其事業ヲ中止シ期限ヲ定メ相當ノ賠償金ヲ差出サシムヘシ

第二十一條 落札人右賠償ノ違フ受タル後之ヲ期限内ニ納メサルトキハ第十八條但書ニ依リ之ヲ處分スヘシ
 第二十二條 公賣物件入札後又ハ契約締結後天災事變等ノ避クヘカクナル原因ヨリ目的ノ物件ヲ亡失毀損
 シタル爲メ公賣ヲ取消シ之レカ爲メ入札人落札人ニ於テ公損害ヲ生スルモ當廳其責ニ任セス
 第二十三條 公賣物件ハ當初入札人ニ於テ熟覽シタルモノニ付落札後數量若クハ物質ニ多少ノ差違又ハ變化
 等アルモ當廳其責ニ任セス

第一號書式

入札書

第 號

一何々(物件ノ名稱ヲ記入スヘシ)何程(數量)

此代金何程

第 號

一何々

此代金何程

何程

(以下此例ニ準シ公告ニ掲載ノ種目ヲ一々記載スヘシ)
 右代金ヲ以テ買受申度林産物公賣規程其他公示ノ條項ヲ承諾シ(保証金相添ヘ)入札書差出候也
 年 月 日

住 所

姓 名

(代理人ナルトキハ代理人ノ住所姓名ヲ併記捺印スヘシ)

縣知事宛

第二號書式

證券印紙

今般別紙入札書ノ通落札セシニ付生産物公賣規程及左記ノ條項ヲ承諾シ買受契約仕候依テ受替差出候也

年 月 日

縣知事宛

住 所

買受人 姓 名

一 代價拂込 何年何月何日限

一 物件引渡 何年何月何日限

一 物件引渡ヲ請求スヘキ官署

一 物件引渡場所

一 何々 (契約ヲ要スル條項ヲ列記ス)

第三號書式

證券印紙

証

第 一 號

第 二 號

一何々

年 月 日

右御引渡相成領收候也

(物件ノ名稱ヲ記入スヘシ)何程(數量)

何 程

縣知事宛

鑛業

買受人 住 所 姓 名

●島根縣令第六十五號 明治廿六年七月十一日

他人ノ採掘セル鑛石ヲ買入レ又ハ砂鑛ヲ製煉スルモノハ起業前製煉場ノ位置及住所族籍姓名ヲ届出テ爾後廢業其他異動ノ節ハ其旨届出ツヘシ且毎一箇年ノ工程ヲ別紙製煉行業明細表雛形ニ依リ調査シ翌年一月二十日限リ島根郡役所市役所戸長役場町村役場ヲ經由當廳ニ差出スヘシ但鑛業條例ニ掲グル鑛業人ト雖トモ買入鑛石ニ係ル分ハ本文ニ準スヘシ

雛形(用紙美濃紙)

製煉場位置	製煉人	住所族籍名印
越	越	

明 治 (何) 年 (何) 製 煉 行 業 明 細 表

品	高	殘	高	製煉 = 附 セシ 鑛石	高	買入	高

品	高	殘	賣	販	高	製	高
			價	代	量	數	

●第八類 ●農工商 ●山林

事記

注意

金銀ハ勿錫ハ斤、鑛石及鐵買ヲ單位トス
自己ノ採取セル砂鑛ヲ製煉スル場合ニ於テモ買入レタルモノト同一ニ買入高ノ欄ニ記入スヘシ
製出高ハ其品類ニ依リ各別ニ記入スヘシ

●島根縣令第十號 明治廿七年二月九日

割鐵鍛冶ノ業ヲ管マントスルモノハ鍛冶場ノ位置營業人ノ住所、族籍、姓名ヲ届出テ廢業等異動ヲ生シタルト
キ其旨届出ツヘシ

割鐵鍛冶營業人ハ別紙雛形ニ依リ一箇年ノ工程ヲ取調ヘテ行業明細表ヲ製シ翌年一月二十日限リ差出スヘシ
本令ニ依リ差出ス書面ハ島根縣郡役所市役所戸長役場町村役場ヲ經由スヘシ

工場		原		製		營業人	
越	高	高	高	越	高	住所	氏名印
銑	鉗	鉗	鉗	製	製	族	籍
						名	印
						氏	

事記	料		品	賣	
	殘	高		品	格

●第八類 ○農工商 ○度量衡

注意
量目ハ總テ買ヲ單位トス
自己ノ鑛ニ於テ製煉セル原料ニ供スル場合ニ於テモ買入レタルモノト同一ニ買入高ノ欄ニ記入スヘシ

●島根縣訓令第四百十三號 明治二十七年八月十四日
島根縣 郡役所 市役所
戸長役場 町村役場

市長戸長町村長ニ於テ明治二十七年七月農商務省令第六號鑛業條例施行細則第九條及全年七月全省令第七號砂鑛採取法施行細則第三條ニ依リ調査ヲ要スル事件ニシテ當廳ヨリ通知ヲ受タルトキハ其事業公益ニ害アルヤ否及出願地ノ字名公簿ニ符合スルヤ否砂鑛採取ニ就テハ特ニ出願地所有者ノ住所氏名シモ取調通知ヲ受タル日ヨリ七日以内ニ其意見ヲ本縣知事へ上申スヘシ

但明治二十七年一月島根縣訓令第二號ハ明治二十七年八月十九日限リ廢止ス

度量衡

●島根縣告示第二十九號 明治廿五年十二月廿八日

本縣常置度量衡檢定所ハ縣廳構内ニ假設ス

●島根縣訓令第二號 明治廿六年一月十日

島 廳 郡役所 市役所
戸長役場 町村役場

廿六年訓令
第三十九號

度量衡器取締並檢定事務補助ノ件左ノ各款ニ據リ取計フヘシ

- 一 市長及戸長町村長ハ毎年三回以上其管内ニ在ル度量衡器製作場修繕場及販賣所ノ臨檢ヲ爲シ其營業ノ設計書ニ照シ營業上ノ觀察ヲ爲スヘシ
 - 二 市長及戸長町村長ハ常ニ其部内ニ於ケル使用者ノ度量衡器ニ注意シ營業上不正ノ器物ヲ使用シ若ハ使用ノ目的ニテ所持スル者アルコトヲ聞知スルトキハ直ニ臨檢ヲ爲スヘシ
 - 三 市長及戸長町村長ハ前二項ノ場合ニ於テ特ニ必要ト認ムル事アルトキハ其都度縣廳ニ報告シ若ハ檢定吏員ノ臨檢ヲ請フコトヲ得
 - 四 臨檢ノ際ハ取締主任タルノ証票ヲ携帶シ之ヲ示スヘシ
 - 五 市長及戸長町村長ハ度量衡特設檢定所ノ設立準備及檢定ニ關スル事務ノ補助ヲ爲スヘシ其概要左ノ如シ
 - 一 度量衡定期檢定ノ際檢定請求者ニ注意ヲ與フルコト
 - 一 度量衡定期檢定ノ際吏員ノ請求ニヨリ受檢器ノ整理其他ノ雜務ヲ執行スルコト
- 訓令第三號 明治二十六年二月十日
- 島 廳 郡役所 市役所
戸長役場 町村役場
- 本年一月島根縣訓令第二號第二項ノ取締ニ就キ特ニ左ノ事項ニ注意シテ調査スヘシ
- 一 證印若ハ証書ノ識別ヲ得ヘキヤ否
 - 一 自然ニ差狂ヲ來シタルモノナキヤ否
- 但自然ノ差狂ト認ムヘキ點ヲ例示スレハ左ノ如シ

度量衡

- (一) 兩端磨損シテ全長ニ差狂ヲ來シ若ハ撓曲シタルモノ
 - (二) 疊尺ノ接續部ニ緩ミヲ生シ全長ニ差狂ヲ來シタルモノ
 - (三) 目盛及全長ノ表記、記號、年號、番號ノ磨滅シタルモノ
 - (四) 容量ヲ減スヘキ物質ノ固着シタルモノ
 - (一) 綠鉄其他ノ部分ニ變狀ヲ來シタルモノ
 - (二) 斗概ノ撓曲シ若ハ側面ニ凹凸ヲ生シタルモノ
 - (三) 全量ノ表記及記號、年號、番號、ノ磨滅シタルモノ
- 衡器
- (一) 分銅ノ重量ニ差狂ヲ生シタルモノ
 - (二) 桿ノ撓曲シタルモノ
 - (三) 指針ノ曲リタルモノ
 - (四) 取緒ノ損シタルモノ
 - (五) 秤量、取量、目盛及記號、年號、番號ノ磨滅シタルモノ
- 右ノ外總テ構造ニ變狀ヲ來シタルモノ
- 島根縣訓令第三十九號 明治廿六年四月六日

島 廳 郡役所 市役所
戸長役場 町村役場

本年一月島根縣訓令第二號第三項ヲ左ノ通改正ス

- 三 市長及戸長、町村長ハ前二項ノ場合ニ於テ特ニ必要ト認ムルトキ及度量衡法施行規則第四十四條ニ規定セル届出ヲ受ケタルトキハ其ノ器ノ修繕ヲ命シ若シハ檢定ヲ受ケシメ其ノ都度事實ヲ具シ縣廳

●第八類 ○農工商 ○度量衡

●島根縣告示第一號
明治廿六年一月十日
度量衡器取締主任ノ證書左ノ通相定ム

表

裏

第 號	年 月 日
度量衡取締主任之証	
檢定委員官姓名若ハ 市長、戸長、町村長姓名	
島 根 縣	
印	

●島根縣告示第百二號
明治廿六年五月十日
本年一月島根縣告示第一號中「町村長ノ下」姓名「ノ」二字ヲ削除ス
●島根縣令第三十七號
明治二十六年三月九日
度量衡取締規則左ノ通相定ム

- 度量衡取締規則
- 第一條 度量衡器製作者、修覆者、販賣者ハ其ノ營業標札ヲ戶外ニ掲クヘシ
 - 第二條 度量衡器製作者、修覆原器ハ濕氣少ク温度ノ劇變及塵埃ヲ避クヘキ場所ニ堅牢ナル臺ヲ据エ平置シテ保管スヘシ
 - 第三條 度量衡器製作者、修覆者、販賣者ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ其ノ營業ニ係ル事實ヲ記載シ取締吏員ノ臨檢ニ差支ナカランムヘシ

但帳簿ハ度量衡器各別ニ調製スヘシ
(度量衡) 器製作帳 此ノ帳簿ニハ製作年月日、製作器ノ形状、物質、種類、番號、圖數、價格ヲ記入スルコト

- 全 器修覆帳 此ノ帳簿ニハ修覆ノ年月日及修覆器以下全上
- 全 器買入帳 此ノ帳簿ニハ買入ノ年月日及買入器以下全上
- 全 器賣出帳 此ノ帳簿ニハ販賣ノ年月日及販賣器以下全上
- 第四條 度量衡器製作者、修覆者、販賣者ハ第一號乃至第三號様式ニ依リ各自ノ營業實況表ヲ調製シ前六ヶ月間ニ於ケル事實ヲ毎年四月、十月、兩度縣廳ニ報告スヘシ
- 第五條 度量衡器製作、修覆、販賣ニ關シ當廳ニ差出ス書面ハ島廳、郡役所、市役所、戸長役場、町村役場ヲ經由スヘシ
- 第六條 度量衡器ノ取締ヲ行フ吏員ニ於テ檢定ヲ要スヘキモノ若ハ差狂アリト認ムルモノハ其ノ器ノ檢定ヲ受ケシメ若ハ修覆ヲ命スルコトアルヘシ

第一號様式

(度量衡器各別ニ調製スヘシ)

明治何年 自何月 至何月 何器製作營業實況表

種 目	製 作 額		販 賣 額		製 作 販 賣 差 引 額
	前期繰越高	本期間製作高	販賣者ニ販賣數	使用者ニ販賣數小計同上代價	
合 計					

備考

此ノ欄内ニハ仰賣先ノ住所姓名及其ノ販賣セシ數ヲ記入スヘシ
右之通相違無之候也

年 月 日

住 所
何 器 製 作 者
何

島根縣知事宛

某

第二號様式

(度量衡器各別ニ調製スヘシ)

明治何年自何月何器修葺營業實況表
至何月

製作府縣種	目	修	葺	數	修	葺	料
合 計							

右之通相違無之候也

年 月 日

住 所
何 器 修 葺 者 何

島根縣知事宛

某

第三號様式

(度量衡器各別ニ調製スヘシ)

明治何年自何月何器販賣營業實況表
至何月

種 目	買 入		販 賣		買入販賣差引殘額
	前期繰越高	本期買入高	箇	數	
合 計					

備考

此ノ欄内ニハ買入先ノ住所姓名及其ノ買入額ヲ記入スヘシ
右之通相違無之候也

年 月 日

住 所
何 器 販 賣 者 何

島根縣知事宛

某

●島根縣令第四十七號 明治廿六年四月六日
本年三島根縣令第二十七號中左ノ通改正ス
第三條中

修葺器ノ下「以下同上」ヲノ形狀、物質、種類、記號、年號、番號、修葺ノ局節、修葺料ヲ記入スルコトニ改ム
買入器ノ下「以下同上」ヲノ形狀、物質、種類、記號、年號、番號、箇數、代價ヲ記入スルコトニ改ム

●第八類 ○農工商 ○度量衡

第二號樣式中

種目ノ下ニ「修復ノ局部」ノ一欄ヲ加フ
「何器修復者」ヲ「何器製作、修復若ハ販賣者」ニ改ム

牛馬市

●甲第八十三號

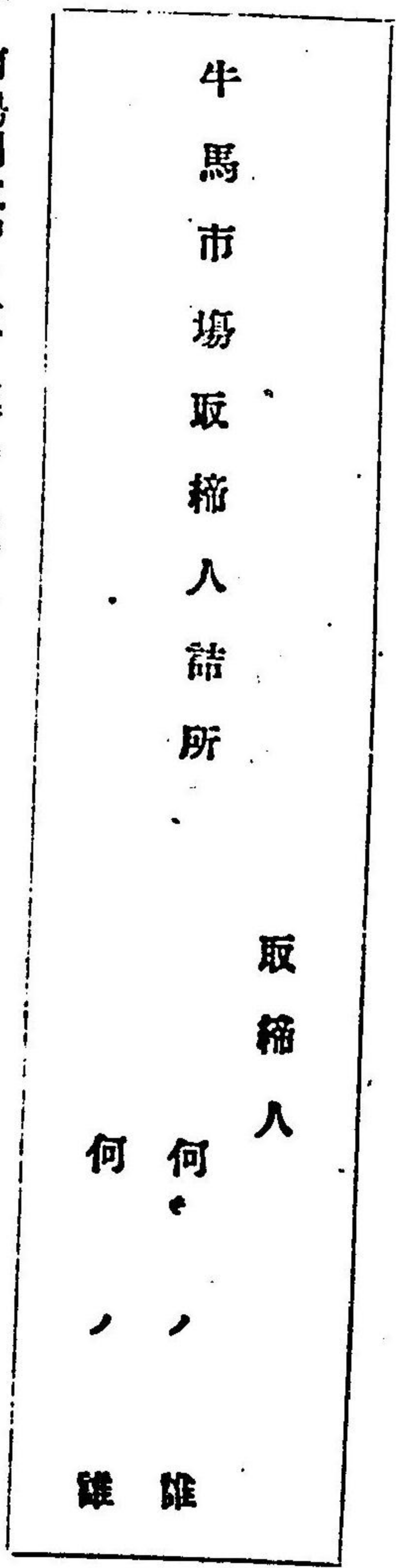
明治十九年六月十八日

牛馬市取締規則左ノ通相定候條從前許可ノ者ト雖モ本則ニ據リ更ニ出願ス可シ
但牛馬市ニ關スル從前ノ布達ハ總テ取消ス
右布達候事

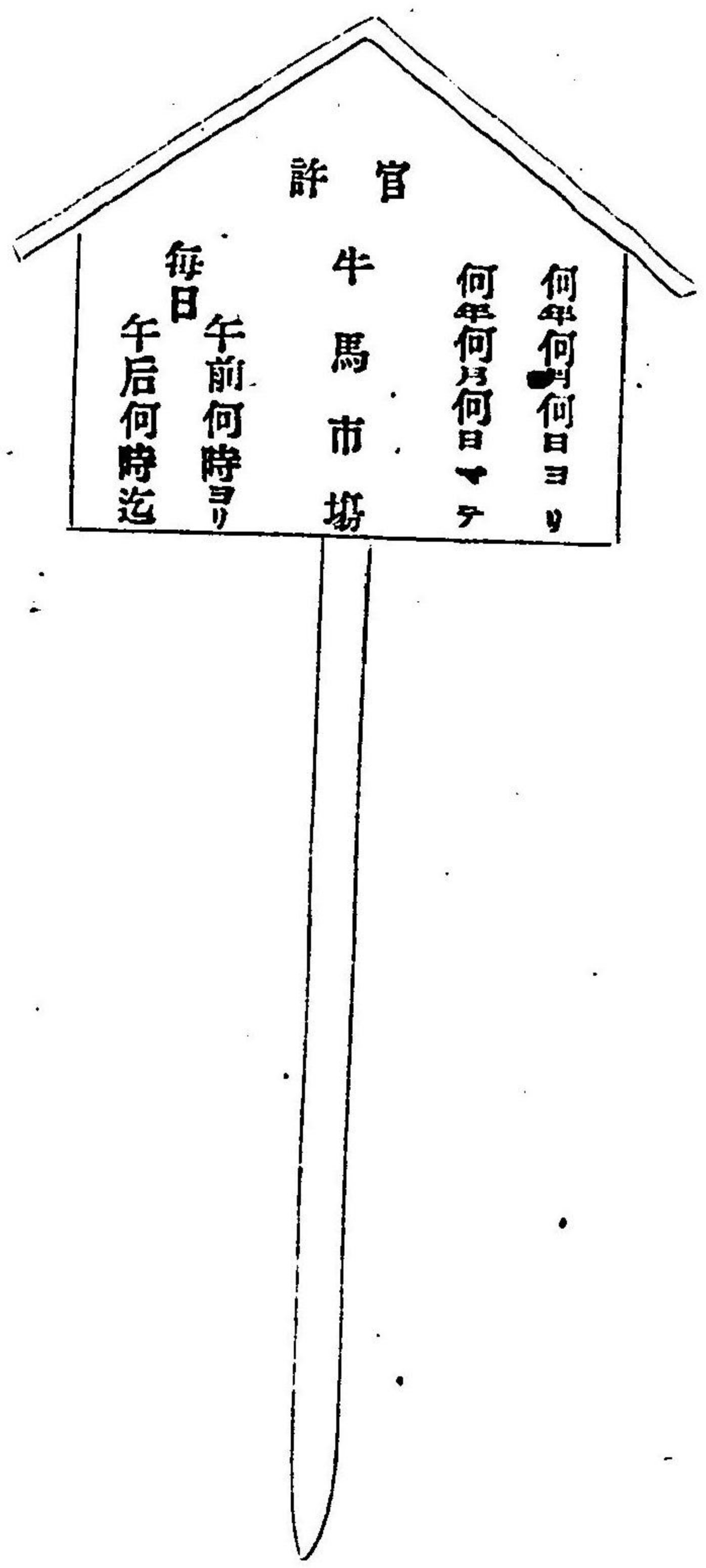
牛馬市取締規則

- 第一條 牛馬市トハ衆人集合シテ牛馬ヲ賣買交換スルヲ云フ
- 第二條 市場ヲ開設セント欲スルトキハ取締人二名以上ヲ定メ該取締人ヨリ願出ツ可シ其願書ニハ開市ノ場所期日等ヲ記載シ別ニ市場ノ地積近傍ノ概況及飲用水人家ノ距離等ヲ記載シタル圖面ヲ添ヒ地主連署ノ上差出ス可シ
- 但定期開市スル者ハ當初出願許可ヲ受ケ置キ開市ノ都度出願ニ及ハス
- 第三條 許可日數ヲ伸シ又ハ市場ノ地區ヲ變換セントスルトキハ第二條ニ準シ出願許可ヲ受ケヘシ
- 第四條 第二條又ハ第三條ニ據リ願出ツルモノアルトキハ局長ハ近傍故障及價行ノ有無取調詳細申ス可シ
- 第五條 第二條第三條ニ據リ出願許可ヲ得タルモノハ開市ノ都度前以場所日限及時間ヲ所轄郡役所及警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ
- 但開市ノ日限ヲ縮メ又ハ時間ヲ伸縮シ取締人ヲ變更スルトキハ本條ニ準シ届出ヘシ
- 第六條 市場ハ道路ニ開設スルヲ許サス尤モ從來ノ慣行アルモノニシテ往來ノ妨害トナラサルモノハ其事情ニヨリ特ニ許可スルコトアルヘシ

第七條 市場開設中ハ左ノ標札ヲ掲ケ置キ取締人ノ内登人ハ必ス詰合フ可シ



第八條 市場開設中ハ左ノ標札ヲ建ツ可シ



●第八類 ○農工商 ○牛馬市

第九條 傳染病ニ罹ルモノハ市場ニ牽出スヲ許サス若シ傳染病ニ罹ルモノト認ムルトキハ直ニ販賣人ヨリ退去セシム可シ

但惡癖アル者ヲ隱蔽シ若シハ詐術ヲ施シタルモノモ本條ニ準ス

第十條 出場畜類中劇症傳染病ニ罹ルモノアルトキハ臨時市場解散セシムルコトヲ可シ此場合ニ於テ營業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條 市場ハ不潔ナラサル様日々掃除ス可シ

第十二條 取締人ハ出場畜類頭數及賣買ノ景况別紙表式ニ據リ閉場後七日以内ニ届出ツ可シ

第十三條 第二條第三條第九條及第十條ニ違背シタルモノハ違警罪ノ刑ニ處セラル可シ

牛馬市景况

區別種目	牛				出 場 頭 數	賣 上 頭 數	最 高 價 價	最 低 價 價	平 均 價
	計		牝						
	當 歲	二 歲 以 上	當 歲	二 歲 以 上					
牝	當 歲	二 歲 以 上	當 歲	二 歲 以 上					
牝	當 歲	二 歲 以 上	當 歲	二 歲 以 上					

備 考	馬	
	計	
	當 歲	二 歲 以 上
口錢其他收入金ヲ記シ尙市場ノ景况可成詳記スヘシ		

右ハ明治何年何月何日ヨリ何月何日マテ何所牛馬市況相違無之候此段御届申上候也
 明治何年何月何日

何國何郡何町何番地
 取締人 何

何國何郡何町何番地
 取締人 何

戸長與印例文
 縣 令 宛

●縣令第七十五號 明治廿二年六月十日
 明治十九年^六月甲第八十三號布達牛馬市取締規則第十三條左ノ通更正ス

●縣令第二十五號 明治廿三年三月八日

●第八類 ○農工商 ○牛馬市

明治十九年六月本縣甲第八十三號布達牛馬市販縮規則ニ左ノ一條ヲ追加シ原第十三條第十四條トス
第十三條 本則ニ係ル願届(願届)ハ島根郡役所市役所戸長役場町村役場ヲ經テ差出スヘシ
郡乙第五十九號 明治十九年七月三日 郡役所

本年六月本縣甲第八十三號ヲ以テ牛馬市販縮規則布達候ニ付テハ左項之通可心得此旨相違候事

第一 市立願ハ規則第四條戸長ノ副申フモ參照シテ許否スヘシ

第二 規則第十二條ノ景况書ハ其時々縣廳ニ進達スヘシ

第三 從來ノ慣行ニテラサル牛馬市ヲ許可セタルトキハ其事由詳細縣廳ニ開申スヘシ

運輸交通

●島根縣令第七十五號 明治廿四年九月十二日
明治二十一年一月縣令第十五號陸運營業取締規則別紙ノ通更正ス

陸運營業取締規則

第一條 陸運營業トハ貨物ノ陸運、人馬ノ搬立ヲ請負フヲ云フ

第二條 陸運營業ヲ爲サントスル者ハ財產調査(所有ノ地所建務公)及ヒ貨物ノ運賃人馬ノ賃錢及手数料ノ定額其
他運送繼立ニ關スル規則ヲ添テ所轄島根郡市役所ヲ經テ縣廳ニ届出テ認可ヲ受クヘシ

第三條 廢業改氏名又ハ轉居シタルトキハ七日以内ニ所轄島根郡市役所ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ

第四條 營業人ハ諸賃額及關係路線ニ於ケル隣接同業者間ノ里程ヲ店頭ニ揭示スヘシ

第五條 運送物ハ左ノ二種ニ別テ取扱フヘシ

一 特別運送物

保險料ヲ定メ損害賠償ノ責ニ任スルモノ

一 通常運送物

陳虞懈怠ニ由リ損害ヲ加ヘタル外其損害賠償ノ責ニ任セサルモノ

第六條 營業人ハ貨物ノ品目個數差出人受取人ノ住所氏名又ハ繼立依頼人ノ住所氏名繼立ノ地名並運送繼立
ノ年月日ヲ記帳シ尙貨物ノ受取ハ必其證據ヲ明カニ爲シ置クヘシ

第七條 營業人ハ名義ノ如何ニ拘ハラズ定額賃及手数料ノ外賃錢ヲ請求スルヲ得ス

第八條 營業人ハ正當ノ故ナクシテ運送繼立ヲ拒ミ又延滞スヘカラス

第九條 第二條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料第七條第八條ヲ犯シタル者ハ拾錢以上壹圓
以下ノ科料ニ處ス

渡船營業

●縣令第百六號

明治二十年十二月五日

渡船營業取締規則左ノ通定メ明治二十一年一月一日ヨリ施行ス現營業者ニシテ全日以降尙營業セントスルト
キハ本年十二月二十日迄ニ本則ニ據リ更ニ願出ヘシ

但明治十八年十一月甲第百六十一號布達縣傳營業取締規則中渡船營業ニ關スル條項ハ本文施行ノ日ヨリ之ヲ
廢ス

第一條 河川ニ於テ渡船ヲ設ケ賃錢ヲ收受セントスル者ハ所轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出營業許可ヲ受ケ尙賃
錢定額ノ認可ヲ受クヘシ

改氏名又ハ轉居シタルトキハ三日以内ニ廢業セントスルトキハ二十日前ニ所轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ届出ヘ
シ

第二條 營業願ニハ左ノ書圖ヲ添フヘシ

一 渡船場ノ位置賃錢ノ定額渡夫ノ人員及渡船留ノ制限等ノ取調書

二 渡船場ノ位置前後ノ路線及十丁以内ニ於テ橋梁又ハ渡船場ナルトキハ其位置並距離等ヲ記シタル書圖

第三條 渡船場ニハ水量枕及賃錢札ヲ建テ所轄戸長ノ臨檢ヲ經タル後ニアラサレハ營業スルヲ許サス

●第八號 ○慶子商 ○運輸交通 ○渡船營業

六四三

六四三

六四三

六四三

六四三

六四三

六四三

六四三

六四三

六四三

六四三

六四三

廿二年原令
第百三十九號
廿七年全第
四十四號發

流失折損若シハ賃銀更定等ノ事故ニ由リ杭札ヲ再建又ハ改訂シタルトキハ更ニ戸長ノ陪檢ヲ受クヘシ但沈失又ハ賃銀更定ハ其日ヨリ十日以内ニ戸長ノ陪檢ヲ受クヘシ

第四條 左ニ記スル者ニ對シ賃銀ヲ請求スルヲ得ス

一 隊伍ヲ組ミ行進スル軍隊及制服着用ノ憲兵

二 近衛鎮臺充員及後備軍召集令所持ノ軍人並令狀配達ノ脚夫

三 制服着用ノ警察官吏及囚人護送ノ看守押丁並其囚人

第四條 電信及郵便物集配人並飛信及郵便物送脚夫集配人又ハ脚夫タルヲ確スル取手者シ又ハ印籠ヲ携ヘ乘配送スル時

第五條 營業人ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ定額賃銀ノ外金銭ヲ請求スルヲ得ス又故ナク渡船ヲ拒ミ若シハ遲滯シテ行人ノ妨ケヲナスヘカラス

第六條 本則第一條前項ニ違背シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處シ第五條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十八條二項ニ據ル

渡船營業願(營業願書式)

明治二十年本縣令第六十六號渡船營業取極規則ヲ遵守シ何街道何川筋何郡何町(村)字何ニ於テ渡船營業仕度此段奉願候也

明治何年何月何日

何國何郡何町(村)何番屋敷士族(平民)

島根縣知事氏名殿

氏 名 印

改氏名(轉居)(廢業)届(改氏名轉居廢業届書式)

明治何年何月何日免許ヲ受ケ渡船營業仕居候處何月何日何々ト改氏名(何月何日何郡何町(村)何番屋敷(轉居)(來ル何月何日限リ廢業)仕候此段御届申候也

何國以下前ニ全ク

渡船場位置其他取調書(渡船場位置其他取調書式)

一 渡船場位置

何地方ヨリ何地方へ通スル何街道何川筋

何郡何町(村)字何渡船場

川幅

何十何間

平水幅

何十何間

水勢

緩(急)

一 賃銀定額

一人

一人

金何程牛馬ノ口取人並駕ノ乗客人夫ト取人ハ運テ本項ニ據ルモノトス

一 牛馬

一匹

金全

一 一人乘人力車

一輛

金全

一 二人乘人力車

一輛

金全

一 荷車

一輛

金全

一 宿駕籠

一挺

金全

一 両掛

一荷

金全

一 何々

何

金全

右ハ平水渡夫何人ノ賃額ニ付渡夫一人ヲ増ス毎ニ本額ノ幾割増

一 渡夫ノ人員

渡夫何人

平水

全 何人

水量幾尺以上

全 何人

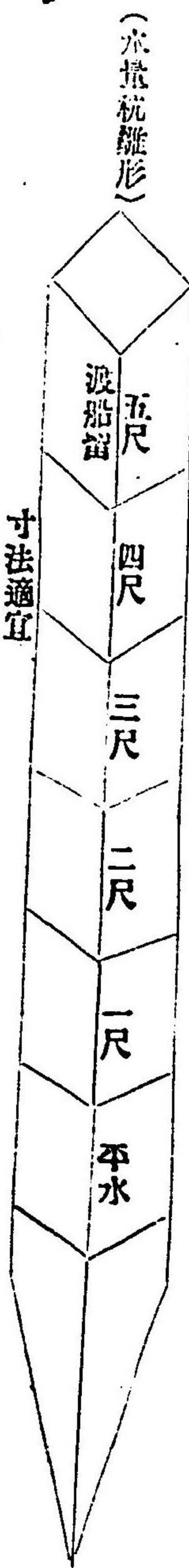
水量幾尺以上

全 何人

第八類 ◎運輸交通 ○渡船營業

但出水ニアラスト雖トモ風波ノ爲ニ渡夫ヲ増スコトアルヘシ
 一渡船留ノ制限 平水ヨリ水量ヲ増ス幾尺ニ至リ渡船ヲ留ム
 右之通有之候也

何國以下前ニ全シ
 水量杭ハ平水ヲ起點トシ船留ヲ終點トシテ尺度ヲ盛リ
 其終起點ハ特ニ人ノ目撃シ易キ符ヲ付スヘシ



(貨錢札雛形)
 何川筋何町(村)字何渡船場
 渡船賃 金 何々
 金 何々
 金 何々
 右ハ渡夫何人貨額ニ付渡夫何人
 ヲ増ス毎ニ本額貨ノ幾割増トス
 平水渡夫何人
 水量幾尺渡夫何人
 右之通島根縣ニ於テ認可
 明治何年何月何日
 堅曲尺一尺寸

●縣令第五百三十九號 明治廿二年十二月廿七日

明治二十年十一月廿二日縣令第五百六號渡船營業取締規則第一條中所轄郡役所ヲ經テトアルヲ所轄町村役場及郡役所又ハ戶長役場及島廳又ハ市役所ヲ經テト改ム

●島根縣令第四百四號 明治二十七年六月二十日

五、明治二十七年勅令第十五號消防組規則ヨリ設置シタル消防組員(水火災警防演習等ニ際シ成規ノ服裝ヲ爲シタル時)

●島根縣訓令第八十四號 明治廿八年七月廿七日

島 廳 郡役所 警察署
 警察分署 市役所

明治二十年十一月廿二日縣令第五百六號渡船營業取締規則第一條ニ依リ渡船營業許可及貨錢定額ノ認可願書ヲ島可郡市長ニ於テ受領シタルトキハ所轄警察署長又ハ警察分署長ノ意見ヲ徵シ副申スヘシ

島 廳 郡役所 市役所
 戶長役場 町村役場

本年一月一日ノ現況ニ依リ管内各町村大字ヨリ其最近宿驛及出雲國松江市マテ石見國各町村大字ヨリ同國那賀郡濱田町マテ隱岐國各町村ヨリ同國周吉郡西郷中町マテノ里程ヲ調査シ來ル二月末日限リ上申シ爾後變更アル毎ニ其旨上申スヘシ

但里程測算ノ起止點ハ各地既定ノ原標、原標ナキ地ハ其中央トス

船 船附海員 航路標識

●告示第五百五十五號 明治廿二年十一月十四日

西洋形船舶免狀ハ明治十二年第十九號布告ニヨリ航海公証ヲ廢シ授與ノモノ故外國航ノ船舶ハ勿論内國航通ノモノト雖モ各船其船内ニ保存スヘキモノナルニ往々船主ノ許ニ留置船内ニ所持セラルモ有之不都合ノ趣

●第八類 ©船期 附海員 航路標識

ニ付自今西洋形船主ニ於テ右等ノ所爲無之様厚ク注意スヘシ

●告示第二號 明治廿三年一月七日 左ノ願届ハ町村役場又ハ戸長役場又ハ市役所ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ

一 西洋形船船免狀下付及書換願 ●訓令第八十一號 明治廿五年十二月九日 島 廳 郡役所 市役所 私立西洋形造船所及造船表自今別紙表式ニ倣ヒ毎一年分取總シ翌年一月限リ當廳へ報告スヘシ

私立西洋形造船所及造船表

明治何年分

造船所名	造船所所長	造船所主設	立廢	止	船名	船種	船質及鋼	總噸數	登簿公稱實馬力	馬力	製造地	竣工日	何々
													何々

備考

一 造船所ハ其年中ニ造船セルト否ト拘ハラズ新設及廢止ニ係ルモノヲ除ク外ハ總テ十二月三十一日現在ノモノヲ掲クヘシ但シ「造船所ノ位置」以下「廢止月日迄」五欄ハ新設及廢止ノモノニ限リ之ヲ記載スルコトヲ要ス

一 一時造船ノ爲メ設立セル仮小屋ノ類モ本表中ニ記載シ符印ヲ以テ其假設ナルコトヲ區別スヘシ

一 重要ノ修繕改造等ノ工事ヲ爲シタル場合ニ於テ本表各欄ノ通取製造代價ノ欄内ニ其代價ヲ記入スヘシ但シ其修繕改造ナルコトハ亦符印ヲ以テ之ヲ區別スルコトヲ要ス

十七年丁酉
二十號十八
年公第
八號

●丁第九號 明治十七年四月十七日 沿海 郡 町 村 客棧月二 第四十五號布告ヲ以明治十二年第九號布告西洋形船海員雇入雇止規則第四條ニ三項追加相成候ニ就テハ右事務取扱手續左ノ通相定候條此旨相違候事

沿海 郡 町 村

- 海員雇入雇止事務取扱手續
- 第一條 雇入ノ公認ヲ與ルニ際シ浦役人ハ左項ニ注意スヘシ
 - 第一 船長、運轉手、機關手、技術免狀ノ有無ヲ檢問スルコト
 - 第二 被雇者ニ於テ最後ノ雇止證書ヲ所持スルヤ否ヲ推問スルコト
 - 第三 被雇者雇入約定ノ旨趣ヲ了解シタルヤ否ヲ推問スルコト
 - 第二條 浦役人ハ船長、運轉手、機關手、技術免狀ヲ檢査シ真正ノモノト認ムルトキハ農商務省ヨリ發行シタル技術免狀檢査證書ニ該免狀ノ種類及船名定額港名等ヲ記シテ之ヲ交付スヘシ
 - 第三條 浦役人ハ被雇者ヨリ最後雇止證書ヲ出サシムル其證書背面ニ何年月日何港ニ於テ更ニ何船へ雇入トナリタル旨ヲ記入シ且之レヲ認印スヘシ但シ新ニ海員トナリ最後雇止證書ヲ所持セサルモノハ此限ニテアラス
 - 第四條 被雇者中約定ノ旨趣ヲ了解セサルモノアレハ浦役人ニ於テ或ハ之ヲ檢問セ或ハ解釋シテ充分了解セシムヘシ
 - 第五條 雇入ノトキハ勿論雇止ノトキト雖モ其證書ノ寫ヲ浦役場ニ保存スヘシ且雇入雇止事務案牘ノ場所ニ於テハ更ニ海員名簿ヲ備置雇止被雇者ノ住所氏名乘組船名等ヲ記入シ他日ノ參照ニ供スヘシ
 - 第六條 雇止メ公認ヲ爲ストキハ前約定面ト相違ノ有無ヲ取札シ若シ當初雇入約定面ト相違ノ虞有之トキハ船内日記簿其他ノ書類ニ據リ雇止ヨリ其實事ヲ證明セシムル海員名簿ニ其旨ヲ記入シ而シテ之ヲ公認ヲ與フヘシ
 - 第七條 甲地浦役場ニ於テ雇入ノ公認ヲナシタルモノヲ乙地浦役場ニ於テ雇止公認ヲ爲シタルトキハ郵便其他便宜ノ方法ヲ以テ甲地浦役場へ送リ一月以内ニ之ヲ通報スヘシ此場合ニ於テハ甲乙兩浦役場ニ於テハ

●第八類 ●船類 附則 第六四九

其雇入證書ノ寫若クハ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第八條 雇入雇止證書中被雇者年齡ハ必ス生年月日ヲ記入スヘシ

第九條 雇入雇止證書中書損アルトキハ必ス正誤セシメ浦役人之ヲ認印スヘシ若シ書損其シテ字句不分明ナルトキハ更ニ新調セシムヘシ

第十條 雇入期限内脱船又ハ死者アリシコトヲ届出タルトキハ雇入證書中事故摘要ノ部ニ其事故ヲ記載シ何ホ其證書ノ寫若クハ海員名簿ニ之ヲ記入スヘシ

第十一條 雇入證書ハ假令ヒ餘白アリト雖モ再度之ヲ使用スヘカラス故ニ其餘白ハ總テ斜線ヲ畫スヘシ

第十二條 雇入期限内雇者被雇者ヨリ雇止ノ公認ヲ請フモノアルトキハ規則ニ照シテ其事由ヲ查明シ公認ヲ與フヘシ但シ正副雇入證書及ヒ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第十三條 雇入期限内雇者變更スト雖モ更ニ雇入定約ヲ爲サシムルニ及ハス然レモ此場合ニ於テハ滿期雇止ノトキ雇者變更ノ事由ヲ正副雇入證書若クハ海員名簿ニ記入スヘシ

●丁第二十號 明治十七年八月二十日 沿海 郡町村

本年本縣丁第九號達海員雇入雇止事務取扱手續第四條ノ次ヘ左ノ一條ヲ追加シ之ヲ第五條トシ舊第五條以下順次繰下ケ候條此旨相達候事

第五條 新クニ海員トナル者ニ雇入公認ヲ與ヘタルトキハ其族籍氏名年齡ヲ本籍ノ戶長ニ照會シ從前海軍兵役ノ有無ヲ取調ヘ備入證書ノ寫若クハ海員名簿ニ記入スヘシ

●丁第八號 明治十八年六月十日 沿海 郡役所 浦役人

明治十七年本縣丁第九號達西洋形船海員備入備止事務取扱手續第十四條ノ次ヘ左ノ一條ヲ追加候條此旨相候事達

第十五條 海抜免狀ヲ受有スル者ハ海員雇入雇止證書職務欄内ニ免狀種類及現ニ服務ノ職名ヲ記シテ公認ヲ與フヘシ

訓令第六百六號

明治廿二年五月廿四日

島 廳 沿海 郡役所 市役所
 沿海 戶長役場 沿海 町村役場

每年十二月三十一日ニ於ケル西洋形船々長運轉手機關手水火夫等ノ現員ハ明治廿二年以降左ノ書式ニ依リ調査シ翌年二月十四日限リ當廳ヘ差出スヘシ

但明治十八年六月丁第七號達ハ廢止ス

書式

明治 年十二月三十一日調

船名	船種	籍氏	主名	免狀番	免狀種	船長以下職務	族籍氏名	給料年月日	雇入年月日	職名
何允			何府縣士族平民	甲乙種船長若シハ小形船々長免狀	船長	何府縣士族平民	何圓	年月日	水火夫	何人
			何 誰	甲乙種一等運轉手免狀	運轉手	同	同	同	同	舵夫
			若シハ會社名	甲乙種二等運轉手免狀	同	同	同	同	同	水夫
				甲乙種一等機關手免狀	機關手	同	同	同	同	油差
				甲乙種二等機關手免狀	同	同	同	同	同	火夫
				甲乙種小形船機關手免狀	同	同	同	同	同	同

以下右ノ振合ニ倣ヒ各船毎乗組人員ヲ列記シ且外國人ハ氏名欄内ニ其國名ヲ記入スヘシ

第八類 ○船泊

●訓令庶第二百九十四號 明治廿二年十一月十五日 陸岐島廳
 周吉郡西郷中町外二町戸長役場ニ於テ西洋形船海員備入備止証書用紙ヲ拂下ケタルトキハ別紙書式ニ據リ翌月一日役場ヲ發シ其廳ヲ經テ當廳ニ申報セムヘシ
 ●訓令庶第二百九十四號 明治廿二年十一月十五日
 其郡内何町村役場ニ於テ西洋形船海員備入備止証書用紙ヲ拂下ケタルトキハ別紙書式ニ據リ翌月一日役場ヲ發シ其郡役所ヲ經テ以下前同文
 ●訓令庶第二百九十四號 明治二十二年十一月十五日 松江市役所
 西洋形船海員備入備止証書用紙ヲ拂下ケタルトキハ別紙書式ニ據リ翌月五日限リ報告スヘシ

年月中海員備入証書用紙拂下報告
 何町村役場

用紙種別	拂下代金	無代支拂高	残高
大備入用紙			
小備入用紙			
備止用紙			
總計			

右及報告候也
 年 月 日
 何市長(何那何町戸長)天二氏 名 印

知事宛

●島根縣告示第六十九號 明治二十六年三月二十五日
 西洋形商船海員備入備止証書用紙ハ左ノ場所ニ於テ拂下シ

- 松江市役所 温泉津村役場
- 美田村外二箇村戸長役場 美保關村役場
- 濱田町役場 加賀村役場
- 高津村役場 日御碕村役場
- 西郷中町外二箇町戸長役場

●訓令第二百十九號 明治廿年十月廿六日 沿海 郡役所
 私設海路標識統計表調製ニ付明治廿年十月 遞信省訓令第六號私設海路標識統計表ニ關スル事項ハ本年以降該表式ニ倣ヒ製表シ翌年一月末日迄ニ當廳ニ進達スヘシ

勸業諮問會 博覽會 共進會

●告示第五十五號 明治二十年三月四日
 明治十七年二月 甲告第十八號告示勸業諮問會規則左ノ通更正ス

- 勸業諮問會規則
- 第一條 本會ハ勸業事務ニ付知事ノ諮問ニ參シ農商務大臣又ハ主務ノ官省ヨリ諮問アルトキ之ニ答フルモノトス
 - 第二條 會員ハ三十二名トシ知事之ヲ命ス其任期ハ滿二年トス
 - 第三條 會長ハ知事親ラ之ヲ勸メ會場ヲ整理シ會員ヲ提携ス但知事々故アルトキハ書記官又ハ其指名セル官吏之ヲ代理ス

書記ハ屬官ノ内ヲ以テ知事之ヲ命シ本會ノ記録庶務ヲ掌ラシム

第四條 本會ハ通常會臨時會ノ二種ニ分ツ通常會ハ毎年一回之ヲ開ク日數十日以内臨時會ハ臨時ニ之ヲ開ク日數五日以内トス其開閉ハ知事之ヲ定ム

第五條 出席ノ會員全員ノ過半數ニ至ラサレハ當日ノ會ヲ開カス
但時宜ヨリ過半數ニ至ラサルモ開會スルコトアルヘシ

第六條 本會ハ午前九時ニ始リ午後三時ニ終ル時宜ニ因リ之ヲ伸縮スルハ會長ノ指揮ニ隨フヘシ但疾病事故アリ出席スル能ハサルモノハ始會前届出ツヘシ

第七條 會員ノ席次ハ每會抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 會場ニ於テハ會員ノ姓名ヲ稱ヘス席次ノ番號ヲ用ウヘシ

第九條 會員ノ發言無用又ハ會員ノ協和ニ妨ケアリトスルトキハ會長之ヲ制止スヘシ

第十條 本會ハ會長ノ特許ヲ得モモノ、外傍聽ヲ許サス

第十一條 本會ノ問題ハ知事之ヲ發ス

第十二條 會員勸業ノ事務ニ對本會ニ建議セントスルトキハ書面ヲ以テ會長ニ提出スヘシ諮問ニ付スルト否トハ會長ノ意見ニマツトス

第十三條 會場ニ於テ發言セントスルモノハ起立シテ會長ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條 陳辨回答ハ會長ニ向ヒ演述スヘシ會員互ニ應答シ又ハ着床ノ儘發言スヘカラス

第十五條 本會ノ演述ハ談話ノ体ニ倚ルヘシ

第十六條 諸説ノ可否ヲ採擇スルハ總テ會長ノ意見ニマツトス
但時宜ニ依リ可否ヲ起立ニ徵スルコトアルヘシ

第十七條 本會ハ勸業上公益ニ關スル事件ニ付主務ノ官署ニ意見書又ハ報告書ヲ呈スルヲ得ヘシ

第十八條 知事ノ發シタル問題ハ其主務官ニ命シ官廳ヲ辨明シ又ハ會員ノ質問ニ答ヘシムヘシ

第廿一年縣令
第百二號

第十九條 農商務省官吏若シハ知事ノ特許セル官吏ハ會場ニ於テ意見ヲ陳辨スルヲ得此場合ニ於テハ總テ本則ニ從フヘシ
但會員ノ數ニ算セズ

第二十條 本會員ニハ開會中滯留日當往返旅費又ハ辨當料ヲ給ス

●甲第百七十四號 明治十九年五月廿六日

各地方ニ於テ博覽會共進會其他之ニ類似ノ會(褒賞ヲ付與スルモノ)ヲ開設セントスルトキハ其趣會主ヨリ規則書相添附會前二十日迄ニ届出日開會後二十日迄ニ其景況ヲ左式ニ準シ報告スヘシ
但明治十六年九月本縣甲第八十三號布達ハ廢止ス
右布達候事

明治何年私立何會報告書

會場地名 國郡村名
何處會共進會下記(一) (二) (三) (四) (五) (六) (七) (八) (九) (十) (十一) (十二) (十三) (十四) (十五) (十六) (十七) (十八) (十九) (二十) (二十一) (二十二) (二十三) (二十四) (二十五) (二十六) (二十七) (二十八) (二十九) (三十) (三十一) (三十二) (三十三) (三十四) (三十五) (三十六) (三十七) (三十八) (三十九) (四十) (四十一) (四十二) (四十三) (四十四) (四十五) (四十六) (四十七) (四十八) (四十九) (五十) (五十一) (五十二) (五十三) (五十四) (五十五) (五十六) (五十七) (五十八) (五十九) (六十) (六十一) (六十二) (六十三) (六十四) (六十五) (六十六) (六十七) (六十八) (六十九) (七十) (七十一) (七十二) (七十三) (七十四) (七十五) (七十六) (七十七) (七十八) (七十九) (八十) (八十一) (八十二) (八十三) (八十四) (八十五) (八十六) (八十七) (八十八) (八十九) (九十) (九十一) (九十二) (九十三) (九十四) (九十五) (九十六) (九十七) (九十八) (九十九) (一百)

會主 何某或ハ何會社或ハ何郡長何町村戶長

開場 何月何日

褒賞授與式 何月何日

閉場 何月何日

出品區域 何郡町村聯合

出品人員 何人

出品員數 若干

出品總價 何圓錢

出品種類 農産水産或ハ陶器漆器織物等成ルヘシ詳細ニ記スヘシ
且農産ハ其物品ヲ詳細ニ記スヘシ

●第八類 ◎勸業諮問會 博覽會 共進會

出品賣數 若干
出品賣價總價 何圓錢

褒賞總人員 何人
褒賞等級別 一特何人二等何人三等何人褒賞何人進管何人功勞
褒賞名與物件 賞何人 杯或ハ牌或ハ何品物或ハ金銀(幣)ハ一何品物或ハ金何圓ニ等何々等
來觀人員 何人 或ルヘク詳細ニ記シ進賞及ビ功勞賞ハ別紙ヲ以テ其實狀ヲ添フヘシ

通券價格 何錢(日曜日平日等ノ區別アルハ各別ニ記スヘシ)
通券收額 何圓錢

會費總額 何圓錢
會費區別 町村費何圓通券料何圓或ハ贈金義捐金等
本會景况 云々 或ルヘク詳細ニ記スヘシ

(啓)ハ特殊發見ノ礦物或ハ有用動植物ノ近來生殖セルモノ或ハ陶漆器織物其他製作品ノ著シク改良進步
セシモノ或ハ從來其地ニナクシテ新ニ製作移種セシモノ或ハ輸入品ニ代用スヘキモノ或ハ將來輸出ノ目的
アルモノ或ハ近年輸出ノ緒ニ就キシモノ等都テ工藝品農產物水產物ニ關シ會場及ヒ集談講話會等ヲ開クハ
其景況ハ勿論後添ニ希圖スル意見及ヒ一般人民ノ意思傾向等成ルヘク詳密ニ記載シ且連年開演ノモノハ前
年ノ比較ヲ揭ケ其損益及保續ノ目的等ヲ詳細記載スヘシ)

●縣令第百二號 明治廿一年十一月八日
明治十九年五月本縣甲第七十四號布達後中「閉會二十日迄」トアルヲ「閉會後五日限」ト改メ
明治廿二年四月四日

近時共進會品評會ヲ開設スルモノ漸ク増加シ物産改良上其効益アルハ爭フヘカラサルノ事實ナリ然ルニ往々
出品種類繁多ニ過キ、列セハ農産共進會水産共進會(汎)殆ト博覽會ト分テ難キノ觀アルニ至ル右ハ業ヨリ効益ナリト

云フヘカラサルモ亦共進ノ主意ニ於テ完全ナラサルニ似タリ又僅ニ數町村ヲ聯合セテ開會スルモノアルハ費
用支出ノ都合ト觀者ノ便利ヲ圖ルトニ出ルナルヘシト雖列品ノ稀少ナル觀者ニ裨益スルノ淺鮮ナルヲ知ル其
審査法ニ至リテモ或ハ甲ニ密ニシテ乙ニ疎ナルモノアルヲ免レス元來共進會ノ要ハ汎ク同種同製ノ物品ヲ對
較比照シテ以テ精粗優劣ヲ圖ハシ一日ノ下ニ競争奮興ノ念ヲ煥發セシムルニ在リ若夫レ物ノ輕重ト緩急トヲ
顯ミス而シテ方法其宜キヲ得サレハ勞多シク益薄カラシ故ニ開會者ハ能ク其地重要ノ種類ヲ撰ビテ出陳ス
ヘキ品目ヲ限リ且成ヘク聯合區域ヲ廣クシ審査ヲ嚴密ニシ以テ開會ノ主意ニ背カザラントニ注意スヘシ
右論達ス

勸業展覽場

●甲告第百六十號 明治十六年七月十三日

本縣勸業展覽場規則別冊之通相定候條此旨告示候事
自明治十三年五月及廣告置候該場心得得ハ廢止ス
(別冊)

島根縣勸業展覽場規則

本場ハ天產人造ノ別テ廣ク必需ノ物品ヲ蒐集陳列シテ衆庶ノ縱覽ニ供シ以テ其性質製法、作用、効用、來源
等ヲ知得セシメ漸次農工商ノ改良進歩ヲ謀ラントスル處ナリ

第一章 總則

第一條 本場ハ一月ヨリ四月マテ並ニ十一月十二月ハ午前第九時ニ開キ午後第四時ニ閉キ五月ヨリ七月十日
マテ並ニ九月十一月ヨリ十月マテハ午前第八時ニ開キ午後第四時ニ閉キ七月十一日ヨリ九月十日マテハ午
前第七時ニ開キ午後第四時ニ閉ツヘシ
第二條 內國所產ノ物品ニシテ管内ニ有益ト見認ルモノハ其天造人工ト新古トヲ論セス陳列スヘシト雖トモ
危險汚穢醜體等ノ物品ハ陳列セサルモノトス

●第八類 ○勸業展覽場

十七年甲告
第百十九號
廿二年告示
第六號
同第百二十
二號參照

- 第三條 外國品ヲ陳列シテ彼我ノ優劣ヲ較ヘ或ハ古物ヲ展列シテ古今ノ沿革ヲ示サントスルトキハ本品ノ附屬トスルヲ法トス
- 第四條 人造物ハ成ルヘク未成品ヨリ既成品ニ至ルマテノ順序ヲ逐ヒ陳列スルヲ要ス
- 第五條 陳列方ハ第一區鑛業及冶金術第二區製造品第三區美術第四區機械第五區農業ノ五區ニ大別シ又其類ヲ小別スヘシ
- 第六條 古物ニシテ(磁器、陶器、漆器、銅器、彫刻、嵌裝、畫、陶畫、漆畫、七寶畫、螺鈿畫、繡畫、雜畫、押畫、烙畫、一畫、砂畫、灰坭畫ノ類)、工藝美術上ノ模範トナルヘキモノハ別ニ參考區中ニ陳列スヘシ
- 第七條 陳列ノ物品ニハ每品必ス品名、製法、產地、工名、若クハ出品人ノ住所姓名及ヒ代價(買上ク又ハ出品セシ當時ノ代價)等記載シタル小札ヲ附スヘシ
- 但古物ニハ代價ヲ記セス
- 第八條 從來各家所用ノ記號商標内外博覽會共進會又ハ他ノ事由ニテ獲賞ヲ得タル品ニハ其獲賞牌ノ寫或ハ模造等ヲ附スルコトヲ要ス
- 第九條 列品目錄並解説書ハ區劃ヲ立テ分類ヲ逐ヒ編冊シテ觀客ノ閱見ニ供スヘシ
- 第十條 陳列場内ハ一切火氣ヲ禁ス
- 但監守人防逃ノ爲メ十一月十五日ヨリ四月十五日マテ火鉢ヲ用フルハ此限コアラヌ
- 第十一條 休場左ノ如シ
- 但物品交換或ハ陳列方整頓ノ爲メ臨時閉場若クハ來觀人ノ景况ニヨリ臨時閉場スルトキハ豫メ揭示スヘシ
- 一月一日ヨリ三日マテ
- 紀元節
- 神武天皇祭

天長節

十二月二十九日ヨリ三十一日マテ
毎月々曜日

- 第十二條 本場へ出品ヲ請フモノアルトキハ第三章出品心得書ニ從フヘシ
- 第二章 觀客心得
- 第一條 觀客ハ先ツ通券賣捌所ニ於テ通券ヲ求メ陳列場入口ニ於テ之ヲ監守ニ示シ縦覽畢テ後出口ニ於テ監守ニ納ムヘシ尤モ一人毎ニ一枚ヲ携フヘシ
- 但滿五歳以下ノ小兒ハ通券ヲ要セス
- 第二條 通券料ハ金五厘トス
- 第三條 何人ニヨラス縦覽スルヲ得ヘシト雖竊竊若クハ酣醉者ト見認ルトキハ入場ヲ許サヌ或ハ場内ヨリ立去ラシムルコトアルヘシ
- 第四條 陳列場へ手荷物類ヲ提携シ或ハ獸類ヲ牽入ルコトヲ許サヌ
- 第五條 陳列ノ物品ニ手ヲ觸ルコトヲ禁ス若シ之ヲ手ニ取リ熟視シ或ハ模寫セント欲スル者ハ監守人ヲ經テ勸業課出張所ニ請ヒ指揮ニ從フヘシ
- 第六條 物品ヲ損害スルコトアルトキハ全價或ハ其部分ニ應シ償却セシムルコトアルヘシ
- 第七條 列品目錄解説書並勸業上ニ關スル書籍目錄ハ監守人ノ面前ニ備置シテ以テ隨意閱見スヘシ尤書籍ハ其書名ヲ付シ及族籍住所ヲ記載シタル名刺ヲ以テ監守人ヲ經勸業課出張所ニ請ヒ聽可ヲ得テ後閱見スヘシ
- 但借覽ノ時間ハ開場時限ト全様タルヘシ
- 第八條 陳列ノ物品ニ就キ質問ヲ要スルトキハ監守人ニ乞フヘシ而シテ尙ホ充分ナラサルトキハ更ニ勸業課員ノ説明ヲ求ムヘシ
- 第九條 庭内ニ於テ砂石ヲ抛チ又ハ花卉樹木ヲ折傷スヘカラス

第十條 場内ニ於テ放歌吟詩其他猥褻粗暴ノ暴動ヲ禁ス
第十一條 陳列室内ニ於テ喫煙スルヲ許サス

第三章 出品者心得

第一條 物品ノ公評ヲ得テ改良ヲ望ムカ又ハ技藝ヲ示サントシ或ハ商標ヲ弘メンカ爲メ若シハ古物(磁器、陶器、漆器、銅器、彫刻、嵌装、畫、陶畫、漆畫、七寶畫、螺鈿畫、繡畫、織畫、押畫、烙銀畫、砂畫、灰泥畫ノ類)ニ於テ工藝美術上ノ模範ヲラシメント欲シ本場へ出品ヲ望ムモノハ先ツ其由ヲ願出ツヘシ其裨益トナルヘキ見込アルモノニ限リ許可スルモノトス

第二條 願書ハ甲號書式ニ準シ直ニ勸業課出張所へ差出スヘシ但便宜ニヨリ郡役所ヲ經ルモ妨ケナシ

第三條 許可シタル出品ハ勸業課ニ預リ(預リ証書ヲ與フ)陳列シテ厚ク保護ヲ加フヘシト雖モ氣候ノ寒暖ニ依リ腐敗シ或ハ變色失体スル等ハ勸業課其責ニ任セシ其他盜難或ハ天災火災ニ罹リ己ヲ得サル場合ニ於テ生スル損害ハ一切出品主ノ損失ナルヘシ

第四條 出品ニ對シ自費ヲ以テ飾臺、箱敷、布標、標旗等ヲ要セント望ムモノハ勸業課出張所ニ申出指揮ニ從フヘシ但シ陳列后ト雖モ位置ノ都合ニヨリ臨機取捨スルコトモアルヘシ

第五條 出品引取方ヲ望ムモノハ乙號書式ニ準シ願書ヲ差出スヘシ

第六條 出品物ハ時宜ニヨリ出品主ノ承諾ヲ得相當代價ヲ以テ買收スルコトアルヘシ

第七條 出品往返運送費ハ悉皆自辨ナルヘシ

△甲號書式 (半紙界紙ヲ用フヘシ) △印ハ朱書
勸業展覽場出品願 出品人 △何 條 雜

古物ニ
ハ此三
項ヲ要
セス

物名	△此區へハ譬ハ縮緬。花瓶等各其出品ノ名ヲ記スヘシ
數量	△此區へハ譬ハ何反。何個。等各其數量ヲ記スヘシ
質	△此區へハ譬ハ織物ナラハ絹。綿布。花瓶ナラハ土燒。石燒等各其原質ヲ記スヘシ
製地	△此區へハ譬ハ織物ナラハ何色何模様。花瓶ナラハ何形何模様等各其形容ヲ記スヘシ
製造人	△此區へハ何國何郡何町(村)ト記スヘシ(古物ニテ分明ナラサルモノハ何處何製トスヘシ)
年曆	△此區へハ何年何千支ノ製ニ係ルニ云々ト記スヘシ(分明ナラサルモノハ不詳ト記スヘシ)
價格	△此區へハ何圓何錢ト記スヘシ(出品スル當時ノ實價ヲ記スヘシ)
褒賞ノ有無	△此區へハ内外博覽會又ハ共進會其他ノ事由ニヨリ何々褒賞ヲ得云々ト記スヘシ
商票記號	△此區へハ各家ノ商標又ハ記號等從來慣用ノモノヲ記スヘシ
改良ヲ仰クヤ否	△此區へハ譬ハ何々ノ所思案ニ能ハス依テ廣ク縦覽ニ供ヘ工夫ヲ仰ク云々ト記スヘシ

右展覽場へ出品仕度該場御規則之趣ハ遵守仕候御許可相成度此段、戸長奥印ヲ以テ奉願候也

何國何郡何町何番屋敷 族籍 何 條 雜 印

年 號 月 日 縣 分 宛 戸長奥印式ノ如シ (別ニ解説書ヲ添フヘシ)

乙號書式

(料紙同上)

記

明治何年何月何日出品

一何品

幾個或ハ幾量目

右展覽場へ出品願置候處此後何々都合ニ付引取申度此段戸長奥印ヲ以テ奉願候也

何國何郡何村何番屋敷

族籍

何條 誰 印

年號 月 日
縣 令 宛
戸長奥印式ノ如シ

●甲告第二百十九號

明治十七年六月二十七日

明治十六年十月本縣甲告第六十號告示本縣勸業展覽場規則中來ル七月一日ヨリ左ノ通更正ス

第二章第一條「觀客ハ先ツ」ノ下「通券賣捌所ニ於テ通券ヲ求メ」ノ十三字及「陳列場入口ニ於テ」ノ下「之ヲ監守ニ示シ」ノ七字ヲ削リ通券ヲ受取リノ六字ヲ挿入シ但書「滿五歳云々」ノ全文ヲ削リ通券料ヲ要セスト改メ
第二條削除以下每條操上

第六條「原簿」借覽ノ時間「ノ下」開場時間ト同様タルヘシトアルヲ監守人ノ指揮ニ從フヘント改メ
本則中「勸業課出張所」トアル「出張所」ノ三字ヲ削ル
右告示候事

●告示第六號

明治二十二年一月十日

明治十六年七月甲告第六十號本縣勸業展覽場規則第二章第六條左ノ通更正ス

第六條 列品目錄及解説書ハ看守人ノ面前ニ備置クラ以テ隨意閱覽スヘシ

●告示第二百二十二號 明治二十二年九月二日

明治十六年七月甲告第六十號告示本縣勸業展覽場規則第三章出品及出品物引取願書式中「戸長奥印ヲ以テ」ノ七字並ニ「戸長奥印式ノ如シ」ノ八字ヲ削除ス

●告示第四百十號

明治二十一年十二月二十七日

本縣第一部農商課備付ノ農工商其他經濟ニ關スル書籍圖類ニシテ使用中ニ係ルモノヲ除クノ外汎ク有志ノ望ニ任セ閱覽セシメン爲メ勸業展覽場物品陳列室内ニ書籍總覽所ヲ設ク有志者ハ該場ニ就キ總覽人心得書ニ據リ隨意閱覽スヘシ

統計報告

●島根縣訓令第百二十二號 明治二十五年六月二十七日

島 縣 郡役所 市役所

縣下特有物産中左記ノ種目自今毎半年ノ事實ヲ調査シ別紙様式ニ準シ一月七月ノ兩度其月二十日限リ報告ス

銅 鉄 銑 鋼 半紙 美濃紙 楮皮 木綿 人參 扱芋 疊炭 木材
推茸 鱈 乾鰯 蠶繭 蠶繭 蠶繭 牛

特有物産取調表

種目	產	額	價	額	市	價	販	路

●第八類 ○統計報告

六六三

六六一

注意

本表産額ハ一月ヨリ六月マテ若クハ七月ヨリ十二月マテノ總計ニシテ其單位銅鉄銑鋼猪皮人參板等雜貨
 錫乾臘鹽脚鹽糖ハ一貫目半紙美濃紙ハ一束木綿ハ一反疊表ハ一枚木材ハ一才牛ハ一頭トス
 價額ハ産額ニ對スル代價ニシテ其下位ハ圓ニ止ムヘシ
 市價ハ中等品各單位ニ付最高最低ヲ記スヘシ
 猪皮ハ原料ノ儘他府縣ニ販賣スルモノヲ掲クヘシ
 木材ハ各種ノ樹木ヲ混同シタルモノニシテ其一才ハ一寸角長二間トス
 乾銀ハ食料ト肥料トヨリ牛ハ牡ト牝トニ因リ區分スルヲ要ス
 商況
 何ハ何月下旬ヨリ何月上旬ニ至ルノ間ハ一般ノ商勢ニ伴ヒ或ハ何々ノ事情ニヨリ價格騰昇、低降若クハ
 取引圓滑、澁滞等其他成ルヘシ詳記ヲ要ス

島根縣訓令第百號

明治二十七年五月十四日

島 縣 郡役所 市役所
 戶長役場 町村役場

米麥作物及收穫報告ノ節増減ノ歩合ヲ算出スルニハ最近五箇年ノ平均ヲ以テ平年ノ收穫ト見做シ計算スヘシ
 但明治二十三年十一月十二日訓令第百四十一號ハ廢止ス

島根縣訓令第百六號

明治二十七年五月二十四日

農商工報告規程

第一條 農商工山林水産ニ關スル事件ハ此規則ニ據リ當廳ニ報告スヘシ
 第二條 報告ヲ分テ定期報臨時報ノ二種トス
 第三條 定期報ハ一項ヨリ四項マテハ毎項定ムル所ノ期限其他ハ每半年間ノ事實ヲ取總シ七月三十日及一月

三十日限報告スルモノトス

- 一 米作開花ノ景況 毎年九月二十日限
 - 二 全成熟ノ景況 毎年十月三十一日限
 - 三 麥作成熟ノ景況 毎年六月二十五日限
 - 四 蠶兒（立ヨリ三齡ニ至ルマテ）ノ景況 毎年五月二十五日限
 - 五 重要農産物（別項ニ掲ケルモノヲ除ケル）ノ景況
 - 六 土地開墾ノ景況
 - 七 牧畜養禽ノ景況
 - 八 漆蠶（第四ニ掲ケルモノヲ除ケル）製糸製茶ノ景況
 - 九 水産物ノ景況
 - 十 伐木並ニ造林ノ景況及林産物集配ノ概況
 - 十一 鑛業ノ景況
 - 十二 工業及製造品ノ景況
 - 十三 商業及市場ノ景況
 - 十四 物貨高低ノ景況
 - 十五 金融ノ景況
 - 十六 物貨輸出入ノ景況
 - 十七 著名港灣船舶出入ノ景況
 - 十八 會社協會組合等ノ景況
- 第四條 臨時報ハ左ニ掲ケル場合ニ於テ報告スルモノトス但緊急ノ場合ニハ電報ヲ以テスヘシ
- 一 蟲 害

第八類 統計報告

二 風雨水旱霜雹ノ害
 三 家畜家禽ノ傳染病
 四 森林ノ火災
 五 漁業者ノ遭難
 六 其他産業上各種ノ災害及著ルシキ影響ヲ生スヘキ事件ノ發生シタル場合

第五條 定期報及臨時報ノ外農商工山林水産ニ關シテ報告ヲ要スヘキ事項左ノ如シ
 一 官民ノ著述編纂翻譯及報告書等
 但著譯書等ハ可成現本ヲ送致スルヲ要スト雖トモ其冊數清淨ナルモノハ題名目錄及其要旨ノミヲ報告スルモ妨ナシ

二 有功者(古今ヲ問ハス)ノ事蹟及其履歷
 三 改良發明試驗ノ成績及該事業ニ關スル各地方從來ノ慣習新設ノ方法等
 四 共進會集談會及之ニ類スル諸會ノ開會アルトキハ其開會ノ地名開閉ノ月日實地ノ狀況談話ノ要旨等
 第六條 報告上物質形狀等文字ニ盡シ難キモノハ圖書寫真離形若クハ見本等ヲ添ヘ數量比例歩合等ニ係ルモノハ表ヲ附スヘシ

第七條 報告ハ可成平易ノ文字ヲ用シ數量歩合等コシテ地方慣用ノ稱呼アル者及ヒ方言等ハ解説ヲ加フヘシ
 第八條 一地方特殊ノ産業若クハ物産ニ關スル事ノ如キハ特ニ詳細ノ報道ヲ要ス

●島根縣訓令第三百三十三號 明治二十七年八月一日
 島 廳 郡役所 市役所
 戶長役場 町村役場

明治二十二年七月訓令第四百四十五號別冊ノ通改正ス
 (別冊)

統計樣式目錄

種	米	麥	食用及特用農產物	桑畑	茶畑	茶	夏	春	蠶糸	牛馬	牛馬	漆	織	陶	漆	青銅	鐵	摺	和	疊
目	米	麥	桑畑茶畑反別	馬	馬	羊	豚	屠	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶
進達期限	每年七月十日	每年七月十日	每年七月十日	每年七月十日	每年七月十日	每年七月十日	每年七月十日	每年七月十日	每年七月十日	每年七月十日	每年七月十日	每年七月十日	每年七月十日	每年七月十日	每年七月十日	每年七月十日	每年七月十日	每年七月十日	每年七月十日	每年七月十日
進達期限	同七月三十日	同七月三十日	同七月三十日	同七月三十日	同七月三十日	同七月三十日	同七月三十日	同七月三十日	同七月三十日	同七月三十日	同七月三十日	同七月三十日	同七月三十日	同七月三十日	同七月三十日	同七月三十日	同七月三十日	同七月三十日	同七月三十日	同七月三十日

第八類 統計報告

品名	作付反別	收穫高	價格	品名	作付反別	收穫高	價格	計	何市	何郡	郡市	備考	
												町反	町反
大豆		石		實棉								大麥	町反
小豆		石		荒芋								小麥	町反
粟		石		坂芋								大麥	町反
稗		石		葉藍								小麥	町反

食用及特用農產物

明治何年分

備考
 一 一郡市ニ細メ計算スルハ際ニ當リ其計數單位以下ハ四拾五入ノ法ヲ用フヘシ以下此例ニ準ス
 一 五反歩收穫高計數ハ單位以下三位ヲ存スルヲ例トス

品名	作付反別	收穫高	價格	品名	作付反別	收穫高	價格	計	何市	何郡	郡市	備考	
												町反	町反
桑種油及生蠟				會社								新製	町反
工場				貨物								漁獲物	町反
物價				新造								漁獲物	町反
新造				破漁								漁獲物	町反
廢用				漁船								漁獲物	町反
漁破				漁船								漁獲物	町反
漁製				漁網								漁獲物	町反
漁獲物				(鹹水產)								漁獲物	町反
漁獲物				(淡水產)								漁獲物	町反
水產製造				鹽								水產製造	町反
食鹽												食鹽	町反

○農商務統計様式

明治何年分

備考
 一 一郡市ニ細メ計算スルハ際ニ當リ其計數單位以下ハ四拾五入ノ法ヲ用フヘシ以下此例ニ準ス
 一 五反歩收穫高計數ハ單位以下三位ヲ存スルヲ例トス

六七〇

茶	桑	種	目	反	別	見	積	反	別	(何々)	玉	蜀	馬	甘	蕎	黍
畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	石	石	石	石	石	石	石
										楮皮(荒皮)	製人參	生人參	葉種畑作	葉種畑作	葉種畑作	葉種畑作
										楮皮(荒皮)	製人參	生人參	葉種畑作	葉種畑作	葉種畑作	葉種畑作
										石	石	石	石	石	石	石
										石	石	石	石	石	石	石

一 實綿、荒綿、葉藍、葉烟草、楮皮ハ乾燥シタルモノ生人參ハ畑ヨリ掘上ノ儘ノ數量ヲ掲ケヘン
 一 扱芋、製人參ハ作付反別ノ記入ヲ要セス其製造高ヲ收穫高欄内ニ記載スヘン
 一 何々トアル欄ハ前掲ノ外地ニ於テ重要食用若シハ特用農産物トシテ耕作スルモノヲ掲記スヘン

桑畑茶畑反別
明治何年六月三十日現在

一 見積反別ノ欄ハ桑畑茶畑以外ニ散在セル桑茶ノ株數ヲ近傍桑茶畑ノ株數ニ比準シ反別ヲ見積リ記入ス

六七一

屠場數	牛馬羊豚屠數										明治何年分					
	馬			牛			牛馬									
	計	外種	雜種	內種	計	外種	雜種	內種	北	末		現				
									計	數	上ノ内乳用	出	産	純	死	

一 其年中ニ出產シテ死亡シタルモノハ出產ノ欄ト並死ノ欄ト双方ニ記入スヘン
 一 應用牛馬ハ此様式ニ依リ別表ト爲シテ報告スヘン

第八類 統計報告

製造戸數		茶											
製造戸數		計	出殻	玉	肩	計	製造戸數	玉	煎	紅	烏	香	計
製造戸數		計	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶
一製造戸數ハ其年五月三十一日ノ現在數ヲ記入スヘシ													
明治何年分													
戸	戸	戸	石	石	石	石	戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸

製造戸數		漆汁											
製造戸數		白下	白砂	赤砂	白砂	黑砂	糖密	糖密	糖密	糖密	糖密	糖密	糖密
製造戸數		下	糖	糖	糖	糖	糖	糖	糖	糖	糖	糖	
一白下ハ製糖ノ原料ニ充テタル量モ合記スヘシ													
一洋式搾車アルトキハ別ニ之ヲ記スヘシ													
一製造戸數及搾車數ハ其年末ノ現在數ヲ記入スヘシ													
明治何年分													
戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸

●第八類 ○統計報告

合計	其他ノ織物	織麻物						物					
		計	其他ノ麻織類	蚊帳地	麻帆布等	上布	晒麻布	生麻布	計	其他ノ綿織物	女帶地類	男帶地類	袴地類
										本	本		
										本	本		
										本	本		

六七九

織		綿						物					交	
綿フラネル	青縮干草木綿類	縮木綿	二子木綿	紵木綿	縞木綿	晒木綿	生木綿	計	其他ノ絹綿交織	女帶地類	男帶地類	袴地類	絹綿綾糸織	絲入縮木綿
										本	本			
										本	本			
										本	本			

六八〇

一 織戸及織敷ハ其年末日ノ現在數ヲ記入シ織工ハ平常使用スル數(一日ノ)ヲ記入スヘシ
 一 其他ノ織物ノ欄ハ前掲ノ部類ニ入ラサル織物ヲ記入スヘシ
 但反物ノ形体ヲ爲サ、ルモノハ此調査ニ加フルヲ要セス
 一 帶地ハ子供帶ハ男女トモ二本ヲ以テ一本ニ數ヘ女帶地巾巾物ハ二本ヲ以テ一本ニ數フヘシ
 一 匹、卷、本等ヲ以テ稱呼スルモノモ可成反ニ改算記入スヘシ
 一 本表ハ其地方ニ於テ有名ナル織場ヲ何地ノ欄ニ記載シ地方一般ニ涉リテ特ニ其織場所ヲ限リ難キモノハ
 一括シテ其他ノ欄ニ記載スルモノトス

陶磁器

明治何年分

製造品價額	職工	窯數		製造戸數	地何	地何	地何	計		
		錦	登窯						同數	筋
圓	人			個	戸					
圓	人			個	戸					

一 實用品何分裝飾品何分又ハ何々ノ類何分等ヲ記シ一年間業務ノ景況ヲ備考トシテ記載スヘシ
 一 製造戸數及窯數ハ其年末日ノ現在數ヲ記入シ職工ハ平常使用スル數(一日ノ)ヲ記入スヘシ

漆器

明治何年分

製造品價額	職工	製造戸數	地何	地何	地何	計
圓	人					

一 實用品何分裝飾品何分又ハ何々ノ類何分等ヲ記シ一年間業務ノ景況ヲ備考トシテ記載スヘシ
 一 製造戸數ハ其年末日ノ現在數ヲ記入シ職工ハ平常使用スル數(一日ノ)ヲ記入スヘシ

青銅器銅器

明治何年分

製造品價額	職工	製造戸數	地何	地何	地何	計
圓	人					

一 實用品何分裝飾品何分又ハ何々ノ類何分等ヲ記シ一年間業務ノ景況ヲ備考トシテ記載スヘシ
 一 製造戸數ハ其年末日ノ現在數ヲ記入シ職工ハ平常使用スル數(一日ノ)ヲ記入スヘシ

鐵器

何

地何

地

計

製造戶數	職工	製造品價額	價額
戶	人	圓	圓
製造戶數	職工	製造品價額	價額
戶	人	圓	圓

一 實用品何分裝飾品何分又ハ何々ノ類何分等記ヲシ一ケ年間業務ノ景況ヲ備考トシテ記入スヘシ
一 製造戶數ハ其年末日ノ現在數ヲ記入シ職工ハ平常使用スル數(一日ノ)ヲ記入スヘシ

摺附木

明治何年分

製造所	職工	數量	價額
	男	女	價額

一 製造所ハ其年末日ノ現在數ヲ記入スヘシ
一 職工ハ平常製造所ニ於テ労働スルモノ、數(一日ノ)ヲ掲載スヘシ
一 マツチ箱製造ヲ内職トスル等間接ニ摺附木製造ノ爲メ生活スル者ノ概數ヲ備考欄ニ記載スヘシ
一 「ダイース」トハ小箱十二個人一包ヲ云フ

和紙

明治何年分

製造戶數	種類	數量	價額
戶數	種	數	圓
製造戶數	種類	數量	價額
戶數	種	數	圓
製造戶數	種類	數量	價額
戶數	種	數	圓
製造戶數	種類	數量	價額
戶數	種	數	圓
製造戶數	種類	數量	價額
戶數	種	數	圓

一 製造戶數ハ其年末日ノ現在數ヲ記入スヘシ
一 一縮トハ百帖ヲ云ヒ一帖トハ半紙其他ノ紙ハ二十枚、美濃紙ハ四十八枚ヲ云フ

疊表吳座類

明治何年分

輸出向莞越

本

六八四

- 一 製造戸數ハ其年末日ノ現在數ヲ記入スヘシ
- 一 輸出向莞越製造ニ付テハ別ニ製造戸數及機數ヲ欄外ニ記入スヘシ
- 一 莞越一本トハ四十「ヤード」即十二間ヲ云フ

菜種油及生蠟

明治何年分

製造戸數	製造數量	同價額	菜種油		生蠟
			戸	石	

一 製造戸數ハ其年末日ノ現在數ヲ記入スヘシ

明治何年十二月三十一日現在

會社種類		會社名稱		積立金	
會社種類	會社名稱	積立金	社債	最近利益	配當割合

票		株式人員	
創設年月	株式人員	組合人員	支店數

- 一 本票ハ一會社毎ニ總形通ヲ記入シ之ヲ一括シ其封筒ニ總計何枚ト明記シ進達スヘシ
- 一 會社種類ノ欄ニハ株式會社合名會社合資會社ノ別ヲ記スヘシ
- 一 營業種別ノ欄ニハ何商何製造等詳細ニ記スヘシ
- 一 利益配當割合ノ欄ニハ最近一ケ年間ノ配當割合ヲ記入スヘシ
- 一 本票ハ總テ、會社ニ適用ス銀行取引所鐵道會社等モ除クヘカラス
- 一 本票紙ノ寸法ハ曲尺縱五寸横四寸トス
- 一 用紙ハ成ルヘク西ノ内ノ新キ厚キモノヲ撰ムヘシ
- 一 會社ニシテ工場ヲ有スルモノハ別ニ工場票ヲ差出スヘシ

明治何年十二月三十一日現在

工場名稱		職工	
工場名稱	職工	男	女

六八五

票		工場所在 地名	原動力 蒸氣力 電氣力 水力
創業年月	持主名	機關數	公稱馬力

一 本票ハ工場所有主ノ會社タルト一個人タルトニ關セシ工十人以上ヲ有スル總クノ工場ニ適用ス
 一 本票ハ一工場毎ニ縱形ノ通り記入シ之ヲ一括シ其封筒ニ總計何枚ト明記シ進達スヘシ
 一 職工人員ノ欄ニハ平常使用スル職工ノ數(一日ノヲ揚クヘシ)
 一 原動力ノ欄ニ蒸氣力電氣力水力ト記ストモ其他風力瓦斯等ヲ用ユルトキハソレヲモ記スヘシ
 一 分工場ハ本工場ト區別スル爲メ分工場ト明記スヘシ
 一 鑛山及鑛物精鍊所及鑛造所等モ亦此工場票ニ記入スヘシ
 一 本票紙ノ寸方ハ曲尺縱五寸五步横四寸トス
 一 用紙ハ成ルヘク西ノ内ノ如キ厚キモノヲ撰ムヘシ
 一 普通ノ火車等ノ如キモノモ亦機關トシテ數フヘシ

職業ノ種類	口給月 給年給 ノ區別	三		九		月	
		上	中	上	中	下	下
農作年雇		女	男	女	男	女	男

賃 錢 地名 明治何年分

農作日雇	養蠶		蠶糸繰		機械		陶器轉轆師	漆器塗師	鋸	袋物職	染物職	和服仕立職	洋服仕立職	木挽職
	女	男	女	男	女	男								

大工	左官	瓦葺	家根職	煉瓦師	指物師	經師職	疊刺	建具職	石工	植木職	烟草刻職	製茶男工	菓子製造職	下駄職

職	馬具師	車製造職	紙漉工	漆搔職	鑄物職	鍛冶職	棉打職	活版植字職	版摺職	油絞職	船大工	桶職	酒造稼人	醬油造稼人

洋赤砂糖 百斤	和赤砂糖 百斤	洋白砂糖 百斤	和自砂糖 百斤	牛 肉 百斤 (十二貫目)	鯉 節 一貫	刻烟草 百斤	葉烟草 百斤	茶 (番茶粉茶) 百斤	清 酒 一石	醫 油 一石	食 鹽 一石	大 豆 一石	小 麥 一石	稞 麥 一石

●第八類 ○統計報告

大 麥 一石	品 種			三 月 六 日 九 日 十 二 日	明 治 何 年 分	漁 夫	坑 夫	日 雇 人 夫	下 男	下 女
	上 一石	中 一石	下 一石							

一本表ハ島根郡市役所々轄内便宜ノ地ニ就テ調査スルモノトス
 一貸錢ハ三月及九月ニ於テ見通ニテ記スルモノトス但シ努力者ノ種類ト地方ノ慣例トニ依リ日給月給又ハ
 年給ニテ記載シ其區別ハ各項ノ下ニ注記スヘシ
 一養蠶糸繰酒造稼人ノ如キ季節ヲ限リ營業スルモノハ其季節間ノ見通ニテ一日又ハ一月ノ貸錢ヲ掲クヘ

藍玉	麻	海氣	花色	生絲			晒金巾	洋產	紡績	洋產	和產	黑砂糖
目一貫	百斤	一反	一反	下	中	上	一釜	金巾	糸	綿	百斤	百斤
				百斤	百斤	百斤						

一番	半紙	美濃紙	炭	薪	石油	水油	杉四分板	松六分板	杉尺	松尺	製鋼	洋鐵	和鐵
目百斤	目十帖	目十帖	目十貫目	目十貫目	目一石	目一石	目一坪	目一坪	目一本	目一本	目一貫	目一貫	目一貫

上ノ三欄ニ記載セラル平均船齡ヲ平均スヘカラス
一西洋形船ハ船種及大サヲ區別シ本表ニ準シテ別紙ニ調製スヘシ

難破漁船

明治何年分

遭難ノ場所	月日	遭難ノ種類	船數	乗組總員	死亡		
					死	負傷	死生不明
計		破壞					
		漂流					
		行先不明					

一本表ハ船籍所在地ヨリ報告スヘシ

漁船

明治何年分

濱浦湖川名	濱浦所屬郡名	地名	五間以上		五間以下		三間以下	
			船數	概價	船數	概價	船數	概價
計								

一本表ハ其年末日ノ現在數ヲ掲クヘシ

新製漁船

明治何年分

濱浦湖川名	郡名	地名	漁網種類	網數	概價	計
			網			
計						

一本表ハ其年内ニ製作又ハ購入シテ使用ニ供セラル漁網ヲ掲クヘシ製造シテ販賣スルモノハ記入ニ及ハス
一本表網ノ種別ノ欄ヘハ曳網類(曳網、沖曳網等ノ別ナ)線網類、敷網類、卷網類、刺網類、建網及雜網ニ類別シテ列記スヘシ

漁獲物 (鹹水産)

明治何年分

濱浦湖川名	郡名	地名	數量	概價	濱浦湖川名	郡名	地名	數量	概價	計
計										

マ	リウダカツラ	眞 カ コ サ バ 鰹	丸 鯖 (コサバ)	平 鯖 (オホサバ)	鰯	紡 (ワカナザワズ)	鰺	シ マ ア ヤ	ム ロ ア ヤ	鰻	カ ヤ キ (コウノイヲ)	石 首 魚	シ ロ ヤ (シロヤイ シロエイ)
グ													
ロ													

チ	黒	ク	鯛 魚 バン コ イ	眞 黄	陸	カ ハ コ ハ	オ ホ イ ヲ	赤 魚 (アカミツ)	鮭	鰺	カ ス ベ エ イ	黄 貂 魚	鰻	海 豚
ス (チンダイ)	鯛	イ												

第八類 ○統計報告

鰻	鱈	公魚 (アマサギ)	鯖 (アゴ)	秋魚	鱈魚	狗母魚	鰻	鮓魚	玉筋魚	カサケ	イカ	タナ	メナダ (イセゴイ)	鰻

鮓	スキナリ (ナキリ)	沙魚 (マズ)	金頭魚	鮓 (コトウチ)	牛尾魚	鬼頭魚	エハ	カサ	カサ	鮓	甘鯛 (コシビツ)	鼠頭魚	サコシ	鮓

鰈	香	鱒	鮭	湖川名				計	ムカデノリ (ムカデモ)	雑食料	肥料	計
				地	郡	名	名					
	魚			数量	地名	郡名	湖川名					
				價額	地名	郡名	湖川名					
				数量	地名	郡名	湖川名					
				價額	地名	郡名	湖川名					
				数量	地名	郡名	湖川名					
				價額	地名	郡名	湖川名					
				数量	地名	郡名	湖川名					
				價額	地名	郡名	湖川名					
				数量	地名	郡名	湖川名					
				價額	地名	郡名	湖川名					

一地名ノ欄ニハ濱浦所在漁町村ノ名ヲ雜記スヘシ(以下全シ)
一本表ハ何方ニテ漁獵セシヲ問ハス所屬漁民ノ捕獲シタルモノヲ悉皆掲載スルモノトス(以下全シ)

漁獲物 (淡水産)

明治何年分

鹿	海	搗	和	カ	カ	海	頭	海	鹿	馬	ウ	黒	海
角	菜	布	布	ギ	メ	菜	菜	菜	菜	菜	菜	菜	菜

計	水	雑	田	蚌	蜆	蝦	蟹	蚌	鮎	泥	鮪
	藻	魚	螺							魚	

水産製造物
 濱浦湖川名
 濱浦湖川名
 明治何年分

カ	ニ	鱒	鮭	公	哈	沙	鯿	鱈	鱒	鮭	鱒	鮭	鮭	鮭	鮭
ハ	ノ				殘										
コ					魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
ハ					魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚

乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	河	乾	乾	乾	乾
拳			章	香	沙	甘		イ	河	河			
螺	蛤	蚶	魚	魚	魚	鯛	鯉	カ	皮	豚	鯖	鱈	鯛

麦	乾	菰	田	乾	鱈	海	乾	甲	水	二	一		
乾								付		番	番		
田	田	菜	作	蝦	鱈	參	鮑	腸	腸	錫	錫	數	地
												量	郡
												價	名
												額	地
												數	郡
												量	名
												價	名
												額	計
												額	
												額	

第十八年甲第
百二十二號
廿二年第
廿七年第
廿三年第
十八號參

計

一本表ハ何方ニテ漁獲セシテ問ハス所屬漁民ノ製造シタルモノヲ悉皆掲載スルモノトス

濱浦名	濱浦所屬郡名	鹽田反別	鹽田產出高		其他食鹽產出高		食鹽產額計	同上價額	電	數
			反	石	石	石				
計										

組合

明治十八年一月八日

●甲第號二號
同業組合準則左之通和定候條向後組合ヲ設ケ規約ヲ爲ス者ハ此規則ニ從フヘシ

右布達候事

全業組合準則

- 第一條 農工商ノ業ニ從事スル者ニシテ全業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスル者組合ヲ設ケントスルトキハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以上ノ全意ヲ以テ規約ヲ作リ縣廳ノ認可ヲ請フヘシ
- 第二條 全業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的ト爲ス可シ
- 第三條 全業組合ノ規約ニ掲ケヘキ事項ハ左ノ如シ
- 第一項 組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱

第二項 組合ノ地區及事務所ノ位置

第三項 目的及方法

第四項 役員ノ選舉法及權限

第五項 會議ニ關スル規程

第六項 加入者及退去者ニ關スル規程

第七項 費用ノ徵收及賦課法

第八項 違約者處分ノ方法

右ノ外組合ニ於テ必要トナス事項

第四條 組合ノ設ケル地區内ニ於テ組合員ト全業ヲ營ム者ハ其組合ニ加盟スヘシ

但事業ノ規模及趣向ヲ異ニスルガ爲メ加盟シ難キカ或ハ加盟ヲ拒ムヘキ事情アルトキハ縣廳ニ申出其認定ヲ請フ可シ

第五條 全業組合ハ全業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 同業組合ハ總テ其事蹟及費用決算表ヲ毎年當廳ニ報告スヘシ

第七條 規約ヲ改正スルトキハ更ニ認可ヲ請フヘシ

第八條 分立又ハ合併スルトキハ更ニ規約ヲ作リ認可ヲ請フヘシ

第九條 全業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ルトキハ縣廳ノ認可ヲ請フ可シ

但シ其聯合他府縣ニ涉ルトキハ開會地管轄廳ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ請フ可シ

●甲第百十二號
明治十八年六月廿四日

本年一月本縣甲第百十二號布達中準則トアルヲ規則ト改メ左ノ一條ヲ增加ス

第十條 第四條ニ違背シタルモノハ違警罪ノ刑ニ處セラルヘシ

右布達候事

●第八號 ●組合

◎縣令第七十三號

明治廿二年六月十日

明治十八年一月甲第二號布達同業組合規則第十條左ノ違反正ス

第十條 第四條ヲ犯シタルモノハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

◎縣令第二十八號

明治二十三年三月八日

明治十八年一月本縣甲第二號布達同業組合規則左ノ一條ヲ追加シ原第十條ヲ第十一條トス

第十條 本則ニ係ル願届ハ島國郡役所市役所戸長役場町村役場ヲ經テ差出スヘシ

◎縣令第三十一號

明治廿一年二月廿二日

農工商同業組合及茶業組合並茶業組合並茶業組合並茶業組合ニ於テ其規約中目的及方法ニ關スル事項ヲ更正セントスルト

キハ其理由ヲ詳細申シ認可ヲ請フヘシ

全上(茶業組合)組合ニ於テ役員ヲ撰定セントキハ其族籍氏名ヲ届出ヘシ

◎縣令第十六號

明治二十二年二月十三日

農工商同業組合並茶業組合並茶業組合並茶業組合並茶業組合ニ各組合ハ其組合事項(茶業組合並茶業組合並茶業組合並茶業組合)ヲ毎年前後兩季ニ別

全上組合費用決算表ハ其年度ノ終リタル月ヨリ二ヶ月間(會計年度ニ據ルモノハ五月マテ)ニ申報スヘシ

◎縣令第九十九號

明治廿二年十月三十日

米穀ノ改良ヲ圖ランカ爲メ組合ヲ設置セントスルモノハ別紙米穀改良組合準則ニ據ルヘシ

(別紙)

米穀改良組合準則

第一條 米穀改良組合ハ地主稻作者及米商ヲ以テ組織シ郡若クハ市町村ノ區域ニ依リ組合ヲ設クヘシ

第二條 組合ノ名稱ハ島根縣何郡何村米穀改良組合ト稱スヘシ

第三條 組合ハ左ノ目的ヲ以テ規約ヲ設クヘシ

耕作法ヲ改良スルコト

賣買上ノ弊害ヲ矯正シ販路ノ擴張ヲ圖ル事

米質ヲ改良シ種類ヲ一定スル事

乾燥ヲ充分ナラシムル事

米製ヲ精良ナラシムル事

俵造ヲ改良スル事

水田ヲ乾スコモ毛作ヲ爲ス事

新古米及各種ノ米ヲ混淆セサル事

故サラニ水分ヲ和シ其他不正ノ處爲ヲナサハル事

貯藏法ヲ完全ナラシムル事

米俵ニハ作人ニ於テ組合ノ名稱並ニ住所姓名ヲ記シタル中札及ヒ差札ヲ附スル事

米穀改良上獎勵法ヲ設ケル事

第四條 組合規約ハ左ノ各項ヲ掲ケ縣廳ノ認可ヲ請フヘシ

組合ノ地區及事務所位置

組合ノ目的及方法

役員撰擧法及權限

會議ニ關スル規定

加入者及退去者ニ關スル規定

違約者處分ノ方法

費用ノ徵收及賦課法

右ノ外組合ニ於テ必要トスル事項

◎第八類 ◎組合

第五條 組合ハ組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スヲ得ス
 第六條 規約ヲ改正シ又ハ組合ヲ分立合併スルトキハ縣廳ノ認可ヲ請フヘシ
 第七條 組合ニ於テ聯合會ヲ設ケルトキハ其規約ヲ作り縣廳ノ認可ヲ請フヘシ
 第八條 組合ノ費用ハ總テ組合員ノ負擔トス
 第九條 組合ハ總テ其事業及費用ノ收支決算ヲ毎年縣廳ニ報告スヘシ

銀行 會社

●告示第三十六號

明治廿三年三月八日

銀行ニ關スル願届ハ島廳郡役所市役所ヲ經テ差出スヘシ

●島根縣告示第八十六號

明治廿六年四月十九日

私立銀行及銀行類似會社ニ於テハ諸証書ニ適宜役印ヲ押用スルモ苦シカラス

島根縣訓令第百二十五號

明治二十七年七月七日

銀行事業ヲ營ム會社ニシテ登記ヲ受ケタルトキハ其事項及年月日ヲ五日以内ニ當廳ヲ經由シ大藏大臣へ届出サシムヘシ

但既ニ登記ヲ受ケタルモノハ來ル七月二十日マテニ本文ノ手續ヲ爲サシムヘシ

移住

●甲告示第百二十四號

明治十九年四月二十日

從來北海道へ移住スルモノニシテ往々其目的確實ナラス且食料ノ資ニ乏キ等ヨリ非常ノ困難ニ陥リ候ノミナラス他ノ開墾者ノ妨ヲ爲スモノ不抄ニ付以後本縣ノ添書ヲ携帶セサルモノハ受理セサル旨其筋ヨリ照會之趣有之候條自今移住出願ノ向へハ詮議ノ上本縣ノ添書ヲ付與スヘシ

右告示候事

●郡乙第三十一號

明治十九年四月廿四日

郡役所

今般甲告示第百二十四號ヲ以テ北海道移住出願ノモノハ詮議ノ上添書ヲ附與候旨及告示候ニ付テハ爾後出願ノモノ有之節ハ移住ノ目的身元ノ厚薄家族ノ有無本人年齢及ヒ將來就業ノ見込等詳細取調申スヘシ此旨相違候事

●島根縣告示第百三號

明治廿六年五月十五日

明治十五年開令第十六號北海道土地拂下規則施行手續等別紙之通改正ナル旨北海道廳ヨリ通知アリシ

●北海道廳令第五號

明治二十六年三月二十四日

明治十九年八月常廳甲第八號布達北海道土地拂下規則施行手續左之通改定明治二十六年四月一日ヨリ施行ス

北海道土地拂下規則施行手續

第一條 規則第三條ニ依リ貸下シキ土地ハ當廳ニ於テ區畫ヲ施設シ毎年公告スヘシ

前項區畫外ノ土地ト雖モ豫メ區域ヲ指定シテ貸下シタルコトアルヘシ

第二條 左ニ列記スル土地ハ前條ニ拘ハラズ特ニ貸下ヲ許可スルコトアルヘシ

一 宅地

二 海産乾場

三 牧場

四 沿海ノ土地

五 從前貸下ヲ受ケタル土地成功ノ上其地ニ接近シテ築スヘキ増地

第三條 土地貸下ヲ受ントスルモノハ願書ニ於テ起業方法書ニ依リ規則第三條但書及第四條ノ規定ニ依リ證明書アルモノヲ添付シ地元戸長役場ヲ經テ當廳ニ差出スヘシ

第四條 規則第四條ニ依リ貸下期限ノ標準ヲ定ムル左ノ如シ

耕地

拾萬坪以下

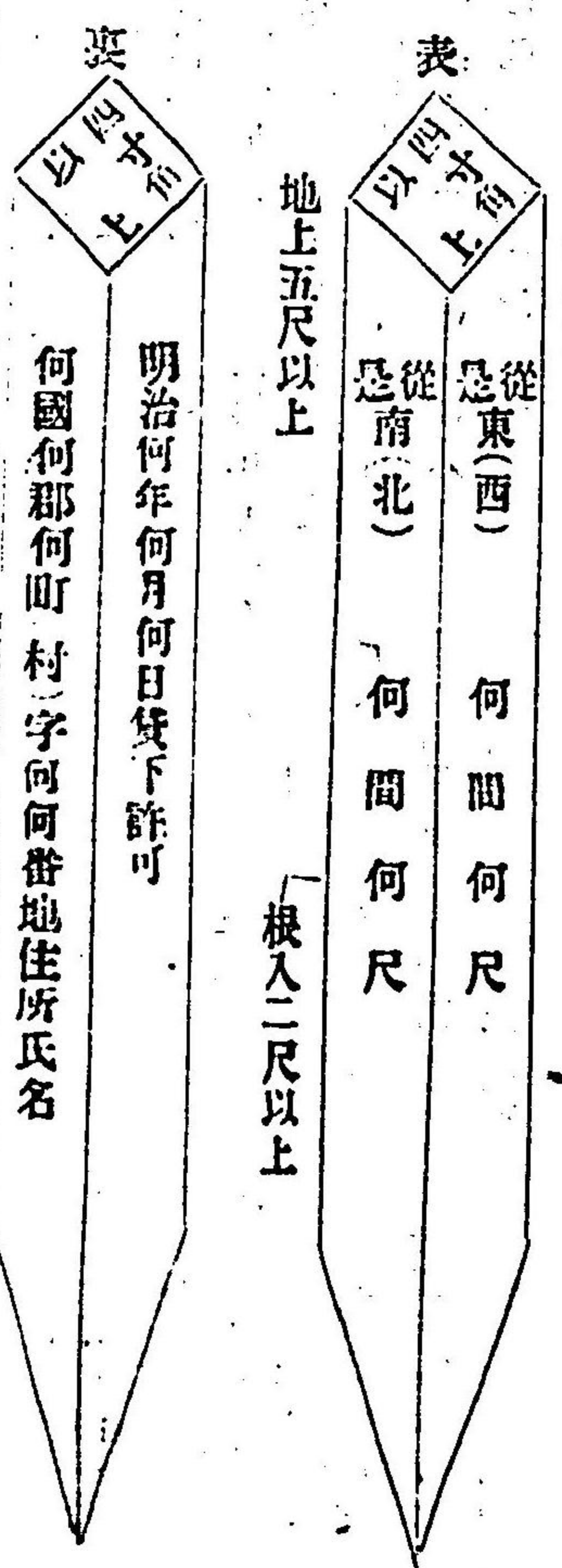
十年以内

六萬坪以下 八年以内
 三萬坪以下 六年以内
 六千坪以下 四年以内
 宅地 三年以内
 海産乾場 三年以内
 收場 十年以内

第五條 起業方法書ニハ左ノ事項ヲ明確ニ記載スヘシ
 一 願地ノ業地名稱坪數其所在國郡村番地又ハ字
 二 樹木有無其樹木ノルトキハ全地ノ樹種目通周尺坪數
 三 但拾坪平均ノ樹數ニ依リ全數ヲ算出スルモ妨ケナシ
 三 事業ノ目的
 四 貸下ノ期限

五 貸下期限内毎年成功スヘキ配當坪數(耕宅地ニ限ル)
 六 風除風致放牧薪炭用等ノ爲メ樹木存置ヲ要スルモノアルトキハ其坪數分一以内ヲ目的トスヘシ
 七 建物ヲ造築スルモノハ其落成期限
 八 漁具若シハ海産採收具ノ種類員數及實地營業着手ノ期限(海産干場ニ限ル)
 九 牧場柵圍間數及事業ニ要スル建物造築落成期限(牧場ニ限ル)
 十 牧草畑地坪數及播種ノ期限(同上)
 十一 牧畜ノ種類牝牡頭數及毎年繁殖ノ豫算(同上)
 第六條 土地貸下出願人ハ其地調査ノ爲メ吏員出張ノ通知ヲ受ケタルトキハ其地境界ニ假標ヲ建設シ現場ニ出頭シテ吏員ノ指揮ニ從フヘシ但第一條一項區畫地ニハ本條ヲ適用セス

第七條 土地貸下出願人ハ許「書受領」ノ日ヨリ三十日以内更ニ貸下地ノ境界ニ標木建設スヘシ
 但積雪ノ爲メ標木ヲ建設スルコト能ハサルトキハ消雪後速ニ之ヲ建設スヘシ
 標木雛形



第八條 土地貸下ノ期限ハ許「書」ニ於テ定ムル翌年一月ヨリ起算スルモノトス
 但許可ヲ受ケタルトキヨリ事業ニ着手スルコトヲ得

第九條 土地ノ貸下ヲ得タル者ハ貸下期限内毎年事業ノ功程ヲ記載シ書式第 四號 其翌年一月三十一日限リ地元戸長役場ヲ經テ常關ニ届出ツヘシ

第十條 規則第五條ニ依リ點檢スヘキ期日ノ通知ヲ受ケタル者ハ成功區域ニ標杭ニ建設シ現場ニ立會スヘシ

第十一條 貸下満期ニ至リ全地成功シタル者ハ土地拂下願書書式第 五號 圖面書式第 六號 添付シ地元戸長役場郡區役所ヲ經テ常關ニ差出スヘシ

貸下期限内ト雖モ全地成功シタルトキハ本人ノ願ニ依リ拂下クルコトアルヘシ

第十二條 規則第六條一項前段ノ場合ニ於テ主タル事業ヲ成功セスレテ之ニ附隨スル通路堤塘溝渠欄柵等ノ施設等ノシテ設備シタルモノアルトキハ其數地ハ未成功トシテ之ヲ處分ス

●第八類 ◎移住

六萬坪以下 八年以上
 三萬坪以下 六年以上
 六千坪以下 四年以上
 宅地 三年以上
 海產乾場 三年以上
 收場 十年以上

第五條 起業方法書ニハ左ノ事項ヲ明確ニ記載スヘシ
 一 願地ノ素地名稱坪數其所在國郡村番地又ハ字
 二 樹木有無其樹木ノルトキハ全地ノ樹種目通周尺寸數
 三 但拾坪平均ノ樹數ニ依リ全數ヲ算出スルモ妨ケナシ
 三事業ノ目的
 四 貸下ノ期限
 五 貸下期限内毎年成功スヘキ配當坪數(耕宅地ニ限ル)
 六 風除風致放牧薪炭用等ノ爲メ樹木存置ヲ要スルモノアルトキハ其坪數分一以内ノ目的トスヘシ
 七 建物ヲ築築スルモノハ其落成期限
 八 漁具若クハ海藻採取具ノ種類員數及實地營業着手ノ期限(海產干場ニ限ル)
 九 牧場柵圍間數及事業ニ要スル建物築築落成期限(牧場ニ限ル)
 十 牧草畑地坪數及播種ノ期限(同上)
 十一 牧畜ノ種類牝牡頭數及毎年繁殖ノ豫算(同上)
 第六條 土地貸下出願人ハ其地調査ノ爲メ其員出張ノ通知ヲ受ケタルトキハ其地境界ニ假標ヲ建設シ現場ニ出頭シテ吏員ノ指揮ニ從フヘシ但第一條一項區畫地ニハ本條ヲ適用セス

第七條 土地貸下出願人ハ許「借受領」ノ日ヨリ三十日以内更ニ貸下地ノ境界ニ標木建設スヘシ
 但積雪ノ爲メ標木ヲ建設スルコト能ハサルトキハ消雪後速ニ之ヲ建設スヘシ

標木雛形

從東(西) 何間何尺
 從南(北) 何間何尺
 地上五尺以上
 根入二尺以上

明治何年何月何日貸下許可
 何國何郡何町村字何番地住所氏名

第八條 土地貸下ノ期限ハ許「借受領」翌年一月ヨリ起算スルモノトス
 但許可ヲ受ケタルトキヨリ事業ニ着手スルコトヲ得

第九條 土地ノ貸下ヲ得タル者ハ貸下期限内毎年事業ノ功程ヲ記載シ書式第其翌年一月二日十一日限リ地元戸長役場ヲ經テ常關ニ届出ツヘシ

第十條 規則第五條ニ依リ點檢スヘキ期日ノ通知ヲ受ケタル者ハ成功區域ニ標杭ニ建設シ現場ニ立會スヘシ

第十一條 貸下滿期ニ至リ全地成功セタル者ハ土地拂下願書書式第其圖面書式第ヲ添付シ地元戸長役場郡區役所ヲ經テ常關ニ差出スヘシ

第十二條 規則第六條一項前段ノ場合ニ於テ主ナル事業ヲ成功セスシテ之ニ附隨スル通路堤塘溝渠柵圍區畫等ノ工費管轄タルモノアルトキハ其數地ハ未成功トシテ之ヲ處分ス

第八類 ◎移住

第十三條 規則第六條一項ニ依リ返地ヲ命シタルトキハ命令書受領ノ日ヨリ七日以内ニ其受書ヲ地元戸長役場ヲ經テ當廳ニ差出スヘシ

第十四條 規則第六條一項ニ依リ返地ヲ命シタルトキハ命令書受領ノ日ヨリ三十日以内ニ施設ノ物件ヲ取除キ其土地ヲ返納スヘシ

但返納地ニ係ル勞費アルモ當廳ハ之ヲ辨償セズ

前項期限内ニ施設ノ物件ヲ取除カサルトキハ當廳ニ於テ之ヲ取除キ其費用ヲ返地人ヨリ辨償セムルコトアルヘシ

第十五條 規則第六條一項ニ依リ返地ヲ命シタルトキ既ニ成功シタル耕宅地ハ第十一條ニ準テ拂下ヲ出願スヘシ

第十六條 規則第七條ニ依リ伐木代價ヲ徵收スルニハ起業方法書ニ記載シタル種樹周尺樹數ニ照テ別ニ定ムル所ノ官林大特賣價額表ノ價額ニ依ル

第十七條 規則第八條ニ依リ返地ヲ命シタルトキハ命令書受領ノ日ヨリ三十日以内ニ施設ノ物件ヲ取除キ費用銅書ヲ差出シ其土地ヲ返納スヘシ

第十八條 規則第九條ニ依リ不得止事故アリテ貸下地ヲ讓渡サントスルトキハ第三條ニ準テ出願スヘシ但既ニ成功シタル部分ハ其成績ヲ詳記シ且成功未成功地ノ區別ヲ圖面ニ朱記スヘシ

第十九條 土地貸下ヲ出願中ノ者若シハ土地貸下ノ許可ヲ受ケル者ニテ地元戸長役場部内ニ居住セザルトキハ其部内ノ居住者ヲ以テ代人ニ定メ地元戸長役場へ届出ヘシ居住者不在ノトキ亦同

第二十條 規則第二條但書ニ依リ土地貸下ヲ出願ルトキハ第三條規定ノ外起業設計書ヲ添付スヘシ但實測圖及ヒ財産調書ヲ徵スルコトアルヘシ

第二十一條 左ノ事項ニ該當スルモノアルトキハ其願書ヲ無効トス

一第六條ノ規定ニ從ハサルモノ

二土地貸下ヲ許可スルニ際シ本人若シハ代人ノ所在不詳コトナ六十日ヲ過ケルモ尙指令書ヲ下附スルニ由ナキトキ

第二十二條 左ノ事項ニ該當スルモノアルトキハ返地ノ處分ヲ終了シタルモノトス

一第十三條ノ期限内ニ受書ヲ差出ササルモノ

二本人若シハ代人所在不詳コトナ六十日ヲ過ケルモ尙返地命令書ヲ下附スルニ由ナキトキ

附 則

第二十三條 従前ノ手續ニ依リ土地貸下期限中ノモノハ總テ此手續ノ規定ニ從フヘシ

第二十四條 本年三月三十一日以前ニ貸下ヲ出願シタル土地ハ本手續第一條ニ依ルノ限ニアラス

書式第一號 (用紙半紙)

土地 貸下 願

何國何郡何町(村)字何々番地

一原野地 何々ハ 何坪 田(畑)(宅地)何々ハノ見込

(他ニ土地貸下ノ許可ヲ得タルモノ又ハ土地貸下出願中ノ者ハ左ノ事項ヲ附記スヘシ)

外

何國何郡何町(村)字何々番地ニ於テ明治何年何月何日土地貸下許可ノ分

何坪 田(畑)(宅地)何々ハ

何坪 内

何坪 明治何年何月迄成功

何坪 未 成 功

何國何郡何町(村)字何々番地ニ於テ明治何年何月何日土地貸下出願中ノ分

何坪 田(畑)(宅地)何々ハ

右北海道土地拂下規則並同施行手續ヲ遵守、別紙起業方法書之通、無相違成功可致候間該地積御貸下相成以
此段奉願候也

何府(縣) 北海道(何國何郡何區何市(町)(村)字何々番地
戸主共何男(職業)

「何府何國何郡何區何市(町)(村)字何々番地(某方)寄留」

明治何年何月何日

名印

北海道廳長官宛

區戸長 氏

名印

前書之通出願候、付進達候也

明治何年何月何日

書式第二號 (用紙半紙)

起業方法書

一原野地何々、何坪別紙圖面ノ個所

一何國何郡何町(村)字何々番地

一全地ニ目通何尺廻何木何本(樹木無之)

一田(畑)(宅地)(海産乾場)(牧場)何々ノ見込

一農(工)(商)(何漁)業若クハ何製造(牧畜)養蠶何々經營並ニ其着手順序ノ詳細

一明治何年ヨリ何年迄何年間御貸下何年限内ニ全地成功其每年事業ノ配當ハ左ノ如ク

初年 (明治何年) 何坪田(畑)何々ノ開墾

但普通農具何々又ハ西洋農具何々(馬何頭)ヲ用ヒ家族何人勞働若クハ小作人何戸又ハ耕夫何人(此金何

程)ヲ以テ田(畑)又ハ何々ノ墾成牛(馬)(羊)(豚)何頭飼育(新ニ購入スルハ其計)小段掛(居小屋)(牧舎)

何々何棟何坪造築(此費用金何程)

道路延長尺何何開新開(同上)

二年目(明治何年) 何坪田(畑)何々ノ開墾(何牧草播種)

但(初年ノ例)ニ準シ詳記スヘシ

牛(馬)(羊)(豚)何頭飼育(新ニ購入スルハ其計)小段掛(居小屋)(牧舎)

排水延長尺何何開新開(此費用金何程)

堤塘延長尺何何開新設(同上)

三年目(明治何年) 何坪田(畑)何々ノ開墾

但(初年ノ例)ニ準シ詳記スヘシ

養蠶室(何製造場)何々何棟何坪造築(此費用金何程)

牧柵延長尺何何開新設(同上)

四年目(明治何年) 以後各年ノ分ハ前例ニ準シ詳記スヘシ

一風防(薪炭用)地等トシテ存置スヘキ木立地何坪樹木何々尺目通何 何本(立木無之)ニ付何年目(明治何年)ニ於

テ何木何本植付ノ見込

一鯉鱒網建網引網差網何統何船何艘明治何年何月迄ニ準備

但明治何年何月何日何漁業若クハ何海漁採收營業許可又ハ出願ニ付明治何年何月ヨリ漁業ニ着手ノ見

込

一何年目(明治何年)ヨリ牛馬羊豚何種何頭何種何頭蕃殖毎年何々何頭販賣何々何頭宛飼育ノ見込

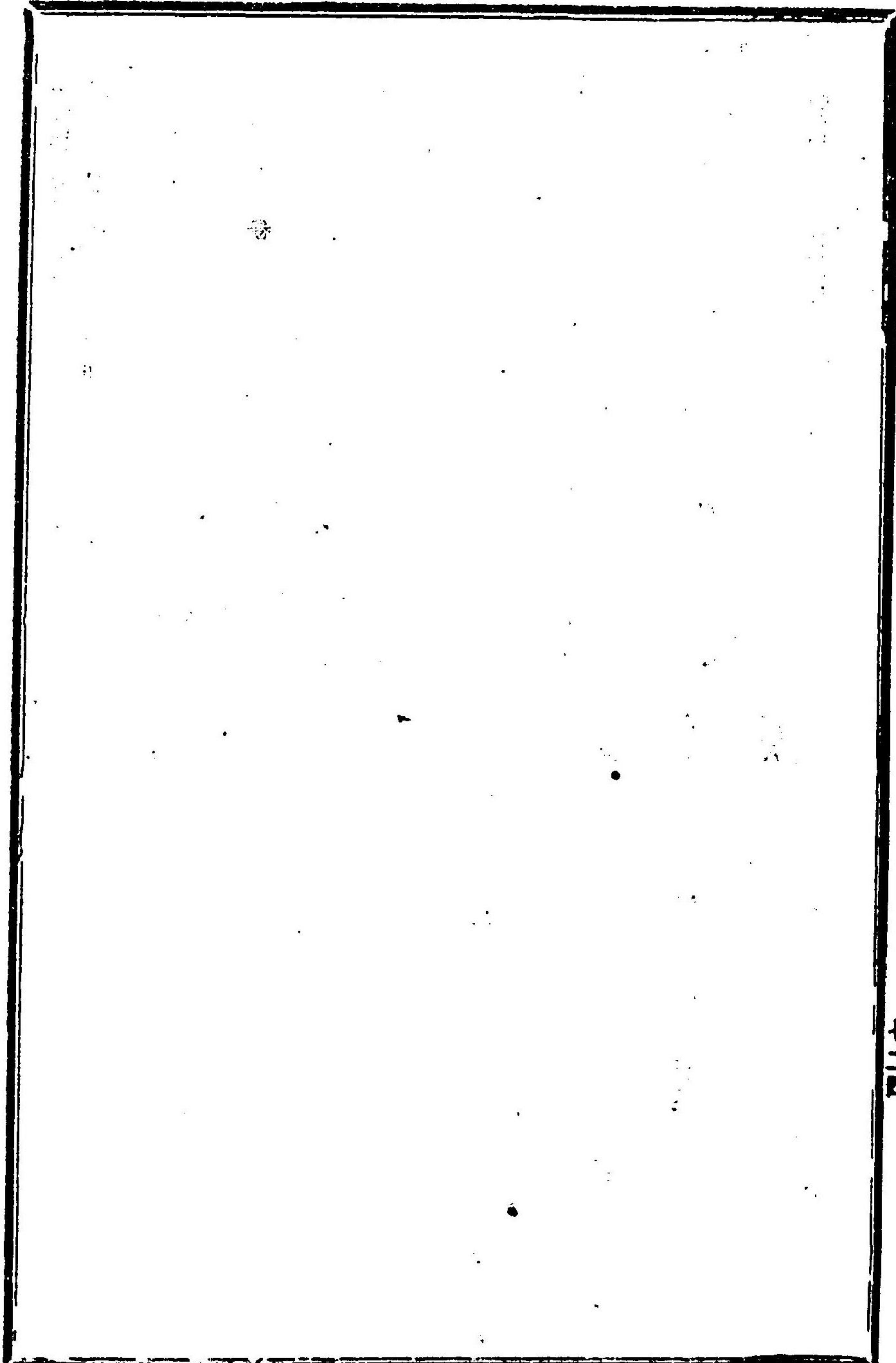
右之通相違無之候也

明治何年何月何日

右願人 氏 名印

第八類 ○移住

七三三



書式第四號 (用紙半紙)

事業成功程度御届

明治何年何月何日貸下許可

何國何郡何町(村)字何々番地

貸下總地積

一田(畑)宅地)又ハ何 坪

初年成功地積

外家屋(居小屋)何々何棟何坪造築済

(二年目以後ハ左ノ如ク内譯ヲ付シ其總計ヲ本項ニ記入スヘシ)

何坪

初年成功

又ハ

自初年成功
至何年日

外家屋(居小屋)又ハ何棟何坪造築済

何坪 何年目成功 居出ル年ノ前年
中成功シタル分

外牧舎(何製造場)又ハ何棟何坪造築

右成功ノ實況御届仕候也

何府(縣)北海道(何國何郡)區(何市)町(村)字

何々番地(主)某何男(職業)

「當時何國何郡(區)何町(村)字何々番地(某方)密留」

氏

名印

明治何年何月何日

北海道廳長官宛

第八類 〇移住

右届出候ニ付進達候地

明治何年何月何日

書式第五號 (用紙半紙)

貸下土地拂下願

何國何郡何町(村)字何々番地別紙圖面ノ箇所

元貸下地何坪

一田(畑)(宅地)何々ハ

但明治何年何月何日貸下許可

名義書換

圖面相添此段奉願候也

區戸長 氏

名印

右ハ北海道土地拂下規則ニ依リ御貸下ノ處今回全地墾成又ハ何々候ニ付地代金上納可致候間御拂下相成度別紙

何府(縣)(北海道)何國何郡(區)何市(町)(村)字

何々番地戸主(某何男)職樂

「當時何國何郡(區)何市(町)(村)字何々番地(某方)

寄留」

明治何年何月何日

氏

名印

北海道廳長官宛

前書之通願出候ニ付進達候也

明治何年何月何日

區戸長 氏

名印

●北海道廳令第六號

明治二十六年三月二十四日

明治二十四年ハ告示第二十四號中當廳地理課小樽松山函館浦河釧路根室旭毛派出所ヲ廢シ右管理區域内土地

ニ關スル左ノ願届書ハ其所管郡區役所ニ差出スヘシ

本令ハ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス

一明治十九年ハ開令第十六號北海道土地拂下規則ニ依ル土地貸下拂下ニ關スル件

●北海道廳告示第十九號 明治二十六年三月二十四日

明治二十六年ハ當廳令第五號北海道土地拂下規則施行手續第一條第一項ニ依リ本年中貸下シヘキ區畫地ハ左

ノ如シ

一石狩國空知郡奈江原野區畫地ノ内貸下殘餘ノ分

一同國同郡幌向原野區畫地同上

一同國夕張郡馬追原野區畫地同上

●北海道廳告示第二十號 明治二十六年三月二十四日

明治二十六年ハ當廳令第五號北海道土地拂下規則施行手續第一條第二項ニ依リ貸下シヘキ土地ノ區域ハ左

ノ如シ

一渡島國一圓

一後志廳振兩國

但後志川沿岸ノ原野及其連續地ニシテ洞爺湖ニ至ル原野千歲郡ノ内北ハ國境西南ハ札幌室蘭間道路ヲ限
リ「マ」ツ「川」ヨリ東北ニ折レ山麓及幌向原野區畫地ヲ限ル原野ヲ除ク

一石狩國 但空知郡「フ」ラ「ス」原野及其連續地「コ」シ「テ」北「ハ」ヒ「エ」「ス」川「ニ」至ル原野並「コ」シ「テ」石

●第八類 ○移住

狩川左岸ニ沿ヒ「ヲキリカウト」川ニ至ル原野
夕張郡山仁登川角田三村ノ内東南ハ山ニ沿ヒ西ハ馬追山麓及夕張川ニ沿ヒ北ハ「ハナヤンベツ」川ニ至
ル原野

上川郡豫定市街地ヨリ石狩川沿岸神居古潭ニ至ル原野

札幌石狩梓戸空知四郡ノ内西南ハ札幌饒函間鐵道ノ左右及札幌室蘭間道路東南ハ島松江別石狩饒向ノ
諸川ヨリ鐵道及都春別川ニ沿ヒ東ハ市來知月形阿村間道路北ハ阿曾岩山麓ヲ經テ海岸ニ至ル原野ヲ除ク

●北海道廳告示第二十一號 明治二十六年三月二十四日

明治十九年八月當團甲第八號布達北海道土地拂下規則施行手續ニ依リ土地貸下出願中未タ踏檢ヲ受ケタル者ハ
調査上ノ都合有之ニ付來七月三十一日限左ノ事項ヲ所轄郡區役所又ハ地理課派出席所ニ届出ヘシ

一左ノ離形ニ準據シタル實地ノ圖面
(屆書式)

何國何郡何町(村)字何々番地
御 届

一原野地何々何坪貸下出願

但明治何年何月何日何戸長役場へ提出
(一人ニシテニケ所以上ヲ出願シタルモノハ)
(一ヶ所ニ前記ノ如ク列載スヘシ)

右本年三月告示第二十一號ノ趣ニ依リ別紙戸籍寫並ニ圖面相添此段御届仕候也
現住所(出願當時ノ住所ニ異動アル)
(モノハ新舊共ニ記載スヘシ)

明治何年何月何日
北海道廳長官宛

氏

名 印

●訓第九十一號 明治二十六年三月三十日

北海道土地拂下規則施行手續取扱順序左ノ通相定メ本年四月一日ヨリ施行ス 郡區役所(札幌支廳)ニ除ク

北海道土地拂下規則施行手續取扱順序

第一條 貸下願書ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ其方法確實ト認ムルモノハ實地ヲ踏檢シ土地ノ景況ト事業ノ
難易トニヨリ貸下期限ヲ定メ調査済証印ヲ押捺シ郡區長之ニ檢印シテ其都度進達スヘシ

第二條 制限外ノ貸下願書ヲ受ケタルトキハ起業方法確實ニシテ成功ヲ遂ケ得ヘキ哉否及ヒ願入實産ノ如何
等ヲ審査シ之ニ意見ヲ付シテ本廳へ送付スヘシ

前項ノ願書ニ要踏檢ノ印章ヲ押捺シテ再ヒ回付ヲ受ケタルトキハ速ニ踏檢ヲ了シ更ニ意見ヲ付シテ進達
スヘシ

第三條 施行手續第二十條但書實測圖及財産調査徴收ノ通牒ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ徴シ送付スヘシ

第四條 牧畜ノ目的ヲ以テ貸下ヲ願出タルトキハ第一條ノ手續ニ依ルノ外尙ホ實地ノ適否ヲ踏檢調査シ之レ
ニ意見ヲ付シテ進達スヘシ

造林ノ目的ヲ以テ願出タルトキ亦同シ

第五條 宅地ノ目的ヲ以テ貸下ヲ願出タルトキハ左ノ制限ニ據ラシムヘシ
一 郡村宅地ハ一戸ニ付壹千坪以内

一 二市街豫定地ハ一戸ニ付一區畫限リ

第六條 海産乾場ノ目的ヲ以テ貸下ヲ願出タルトキハ左ノ制限ニ據ラシムヘシ
但二種以上ノ漁業ヲ兼スル者ハ其地積ノ最モ大ナルモノニ就キ貸下ヘシ若シ事業擴張ノ爲メ本條制限外
貸下ヲ願出タル者アルトキハ事實ヲ審査シ之ニ意見ヲ付シテ進達スヘシ

一 鐵建網 (行成網及角網) 壹統ニ付千五百坪以内
拾放ニ付百坪以内

●第八類 ●彩仕

基キ規約ヲ結ヒ所轄島廳郡市役所ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

要領

- 一 職業
- 一 事業ノ目的
- 一 移住地ノ所在
- 一 貸下出願スヘキ地積
- 一 家族ノ數及年齡

雜

●甲告第八十三號 明治十九年三月十九日

登錄商標見本觀覽所左ノ箇所ニ設ク

右告示候事

島根郡殿町勸業展覽場

出雲楯縫神門郡役所

那賀郡役所

周吉穩地海士知夫郡役所

告示第六十九號

能義郡役所

瀨摩安濃郡役所

鹿足郡役所

明治二十年十一月十四日

●甲告第八十三號 明治十九年三月十九日
登錄商標見本觀覽所左ノ箇所ニ設ク
右告示候事
島根郡殿町勸業展覽場
出雲楯縫神門郡役所
那賀郡役所
周吉穩地海士知夫郡役所
告示第六十九號
明治二十年十一月十四日
明治十九年三月十九日
甲告第八十三號 登錄商標見本觀覽所ノ内左記ノ箇所ニ商標公報備置候條便宜雜覽スヘシ
但登錄商標見本第一六五二號迄ノ分ハ觀覽所ニ存置テ爾後見本ヲ配附セス
島根郡殿町勸業展覽場
能義郡役所
那賀郡役所

鹿足郡役所

●訓令第八十五號

石炭消費高左ノ書式ニ據リ前一年分取調毎年三月限届出ヘシ
但消費高無之トキハ其旨本文期限マテ届出ヘシ

自明治何年一月何郡石炭消費高取調書
至同何年十二月何郡石炭消費高取調書

一 船舶用

一 工場用

右之通ニ候也

何 斤 (和 斤)

何 斤 (和 斤)

(本項ハ其所有者ノ所在地ニ於テ調査スヘシ)
(本項ハ蒸氣器械ヲ使用スルモノ及瓦斯又ハ(コーラス)製造所ニ消費スルモノニ限ル)

知 事 宛

郡 長 名

●訓令第百五號

勤勉貯蓄ノ結果左記ノ書式ニ準シ先以テ客年末ノ實況ヲ報告シ爾後前年末ノ結果ヲ翌年二月十五日マテニ報告スヘシ

(書式)

勤勉貯蓄取調表

町 村 浦 名	現 在 金 額	全 米 穀 其 他 數 量

○備考 申台規約ヨリ成立タル一已人ノ貯蓄ハ此書式ニ倣ヒ別表ニスヘシ尤モ現在金額及米穀其他數量ノ下
 景況 勤勉ノ結果貯蓄ノ方法及其年内ニ係ル民間ノ實況如何ニヨリ貯蓄額ノ多寡或ハ何々ノ事故アリ支消云
 ヲ其他可成詳細記載スヘシ

●告示第十六號 明治二十三年一月二十八日
 本日ヲ以テ水鳥蓄殖保護ノ爲メ安道湖上ニ於テ銃獵ヲ爲スコトヲ禁止セリ

●告示第三十四號 明治廿三年三月八日
 左ノ圖局ハ島廳郡役所市役所戸長役場町村役場ヲ經テ差出スヘシ

- 一 鑛山ニ關スル諸願(本項ハ鑛業條例ニ依リ消滅)
- 一 度量衡ニ關スル願届
- 一 會社ニ關スル願届
- 一 獸醫開業試驗願
- 一 獸醫開業免狀下附願
- 一 獸醫免狀書換願
- 一 種馬拜借願
- 一 師團馬匹拂下紹介願
- 一 種苗購求紹介願
- 一 地方稅經濟ニ關スル官林内主副產物拂下願及請書
- 一 官有山野諸產物拂下願及請書
- 一 茶業組合ニ關スル願届
- 一 養蠶製絲傳習場設立願

廿七年告示
第六十七號

- 一 博覽會共進會開設及景况届
- 一 勸業會起廢届
- 島根縣告示第六十七號 明治廿七年四月十四日
 明治二十三年三月告示第三十四號中第一項ヲ削除シ末項ヘ左ノ二項ヲ追加ス
- 一 取引所ニ關スル願届
- 一 商業會議所ニ關スル願届
- 島根縣告示第二百五號 明治廿五年十二月二十七日
 石見國那賀郡濱田町大字原井ニ二等測候所ヲ設置シ來ル明治二十六年一月一日ヨリ開始ス
- 訓令農第八號 明治廿五年十二月廿七日
 濱田測候所規程左之通相定ム

濱田測候所規程

- 第一條 濱田測候所ハ氣象臺測候所條例及氣象臺測候所條例施行細則ニ依リ左ノ事務ヲ掌ル
- 第一 測候所々在地ノ氣壓、溫度、濕度、水蒸氣壓力、風雲、雨雪及其他ノ氣象ヲ觀測ス
- 第二 島廳郡市役所及戸長役場町村役場ノ報告等ニヨリ廣ク管内ノ氣象ヲ調査ス
- 第三 中央氣象臺ヨリ受クル天氣豫報及ヒ暴風警報ハ測候所揭示場ニ之ヲ揭示シ其暴風警報ハ松江警察署、安來警察署、今市警察署、全杵築分署、大森警察署、濱田警察署、津和野警察署、ニ速報ス
 但濱田警察署ヘハ急使其他ヘハ電信ヲ用ヒ且津和野警察署ヘハ陸地警戒ニ限リ報告スルモノトス
- 第四 島廳郡市役所戸長役場町村役場等ヨリ寒暖計ノ検査ヲ依頼スルトキハ之ニ應ジ検査ス
- 第二條 濱田測候所ニ左ノ職員ヲ置ク
 所長

廿六年訓令
第六十四號
廿八年統制
第九十七號
二號参照

技術員

雇

- 第三條 所長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ本所全般ノ事務ヲ管理シ所屬職員ヲ統轄ス
- 第四條 職員ハ氣象觀測及報告ノ事ヲ掌リ所長不在若シハ事故アル時ハ次席ノ技術員其事務ヲ代理ス
- 第五條 氣象觀測ハ務メテ正確ナルト欲測等ナキヲ要ス若シ己ムヲ得サル事故アリテ觀測中止若シハ缺測シタルトキハ速カニ其事由詳細内務部へ届出ツヘシ
- 第六條 所長ハ毎年末ニ職員ノ出勤日數ヲ調査シ内務部へ申報スヘシ
- 第七條 職員疾病ヨリ欠勤スルトキハ所長ニ届出テ其欠勤十五日ニ及フ者ハ醫案ヲ添ヘ知事ニ届出ツヘシ爾後欠勤十五日ニ及フ者ニ同様ノ手續ヲナスヘシ
- 第八條 忌引スルモノハ其事由及忌服日數ヲ詳記シ内務部へ届出ツヘシ
- 第九條 所屬職員ノ願届ハ都テ所長ヲ經由差出スヘシ
- 第十條 宿直ハ毎夜職員二名ツ、輪番ヲ以テ勤ムヘシ
- 第十一條 本所近傍ニ於テ出火アルトキハ速カニ出頭シ若シ延焼ノ虞アルトキハ警戒防禦ニ從事スヘシ風水震災等ノ節亦全シ
- 第十二條 本所ニ到達スル文書ハ公文受付簿ニ其件名番號ヲ登錄シ本書ニ受付月日ヲ記入シ所長檢閱ノ上各主務者ニ交附スヘシ
- 但第一條第三項ノ天氣豫報暴風警報ハ此限ニアラス
- 第十三條 本所ヨリ發送スル文書ハ總テ所長又ハ所名ヲ以テスヘシ
- 第十四條 總テ處分完結ノ文書ハ本書及附屬書類共分類編纂シ保存スヘシ
- 第十五條 本所經費ノ實費ハ仕譯書ヲ添ヘ内務部へ請求スヘシ
- 第十六條 建物道溝及周圍垣等ノ修繕ヲ要スルトキハ第四土木區區員派出所へ請求スヘシ

訓令農務第四號 明治廿六年四月五日

濱田測候所

濱田測候所規程中左ノ通改正ス

第三條 次ニ左ノ一條ヲ挿入シ原第四條以下ヲ繰下シ

第四條 本所小使ハ所長之ヲ進達ス

但宿直ニノ都度内務部へ申報スヘシ

訓令農務第六號 明治廿六年四月十八日

濱田測候所

濱田測候所規程中左ノ通改正ス

第十一條 宿直ハ毎夜職員一名ツ、輪番ヲ以テ勤ムヘシ

但宿直翌日ハ事務ノ都合ニ依リ正午ヨリ退所スルコトヲ得

第十一條 次ニ左ノ一條ヲ挿入シ原第十二條以下ヲ繰下シ

第十二條 天氣警戒中其他臨時觀測ヲ要スル場合ニ於テハ夜間ハ特ニ二名ツ、觀測ノ事ニ從フヘシ

訓令農務第九號 明治廿七年四月十日

濱田測候所

其所規程第一條第三項中安來警察署ノ下及全項但書中且ノ下ニ各木次警察署ノ五字ヲ加フ

訓令第二號 明治廿八年三月二十日

濱田測候所

濱田測候所規程中左ノ通更正追加ス

第一條 第三項中濱田警察署ノ下ニ益田警察署ノ五字ヲ加フ

第十七條 本所經費ハ一ケ年度分ヲ四期ニ分テ所長ハ豫算ヲ以テ前渡ヲ受クヘシ但所長ハ毎年三月二十日

限翌年度ノ月額豫算ヲ定メ内務部長へ申報スヘシ

第十八條 前渡金ノ内備品費、消耗品費、郵便電信料、印刷費、運搬料、雜費ノ各費目ハ所長ニ於テ彼是流用

支辨スルコトヲ得

第十九條 建物道溝及周圍ノ柵垣等ノ新築修繕ヲ要スルトキハ第四土木區區員派出所へ請求スヘシ但修繕

第八類 雜

七×三〇-ア

工事ロシテ其費額拾圓未満ノモノハ測候所ニ於テ施行スルコトヲ得
第二十條 毎年觀測ノ結果即チ空氣ノ溫度、天氣日數、雨雪量、暴風ノ度數景況等其他氣象一般ニ關スル事
蹟ヲ翌年一月十五日限内務部長ニ申報スヘシ

明治二十九年七月十三日印刷
明治二十九年七月十四日發行

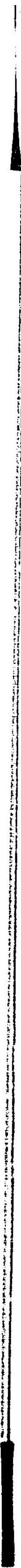
島根縣

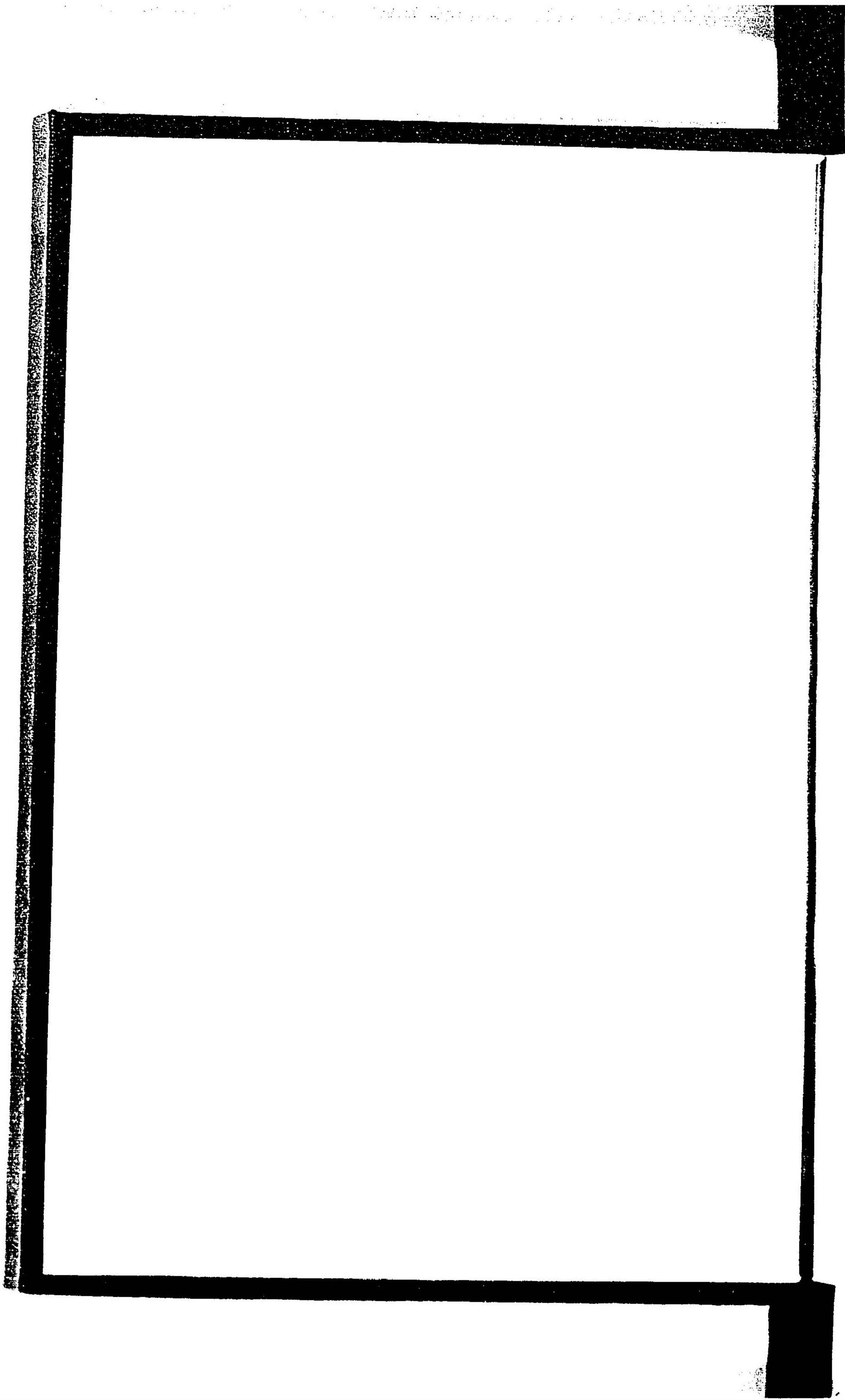
島根縣松江市殿町百十三番地

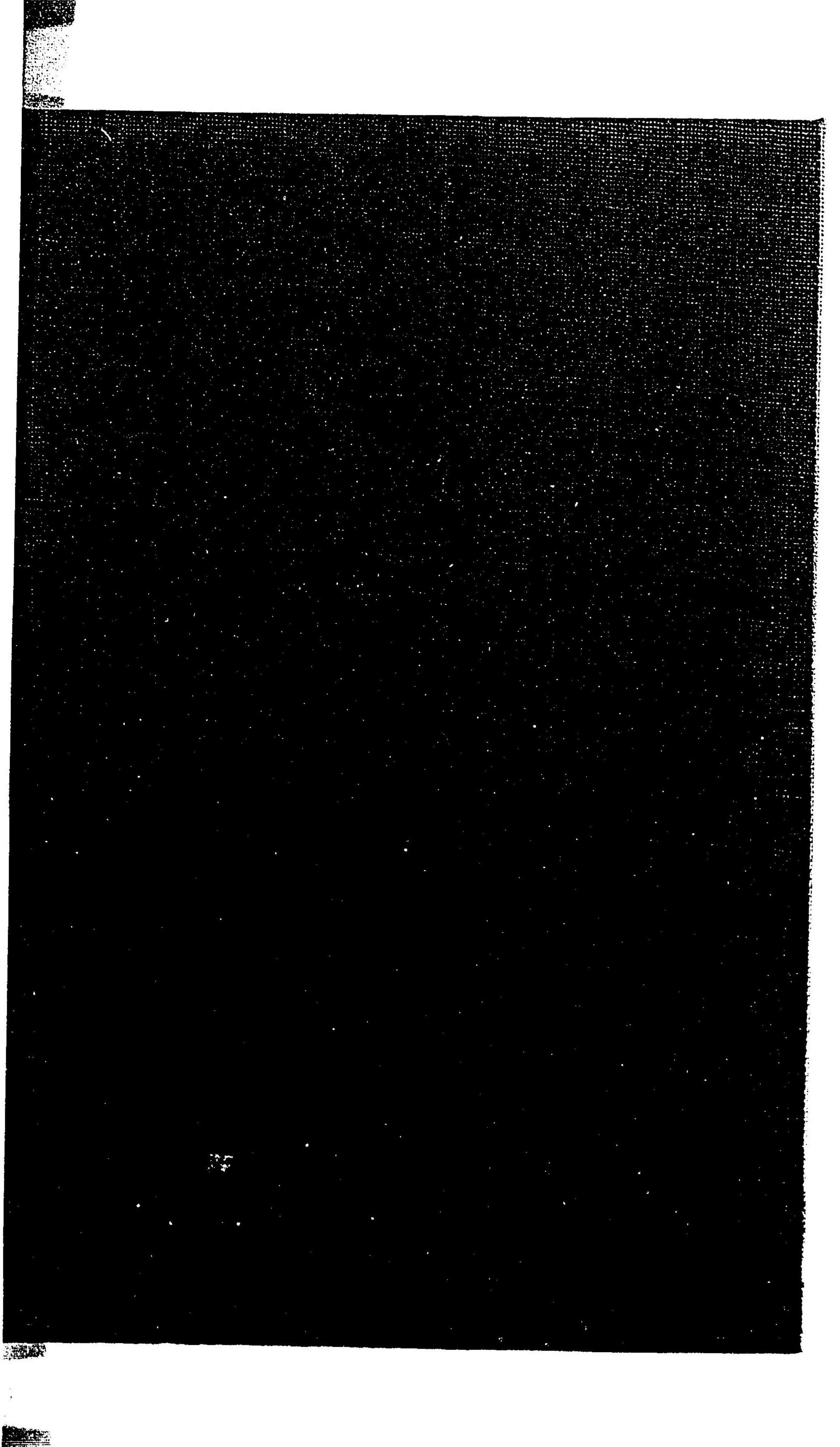
印刷者 兼發行者 福田秀太郎

全縣松江市殿町百十三番地第百四活版所

發行所 博廣社







禁電子式複写

